

IBM WebSphere Commerce - Express



**インストール・ガイド
(Linux システム用)**

バージョン 5.5

ご注意!

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、107ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書の内容は、新版で特に指定のない限り、WebSphere Commerce - Express バージョン 5.5 以降のすべてのリリースに適用されます。製品のレベルに合った適切な版を使用していることをご確認ください。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： IBM WebSphere Commerce - Express
Installation Guide
for Linux systems
Version 5.5

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2003.9

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1996, 2003. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2003

本書について

資料の説明

このインストール・ガイドは、Intel® ベースのシステムで実行している Linux オペレーティング・システム上で IBM® WebSphere® Commerce - Express をインストールして構成する方法を記載しています。これは、システム管理者またはインストールおよび構成タスクを実行する担当者を対象としています。

重要

特に断りがない限り、本書で用いている *WebSphere Commerce* というすべての表現は、WebSphere Commerce - Express を指しています。

本書の更新

製品の最新の変更点について知りたい場合は、WebSphere Commerce - Express CD 1 のルート・ディレクトリーにある README ファイルを参照してください。さらに、本書のコピーおよび本書の更新バージョンは、次の WebSphere Commerce Technical Library Web サイトから PDF ファイルとして入手することができます。

<http://www.ibm.com/software/commerce/library/>

本書の更新バージョンは、以下の WebSphere Developer Domain にある WebSphere Commerce Zone から入手することもできます。

<http://www.ibm.com/software/wsdd/zones/commerce/>

サポート情報は、以下の WebSphere Commerce サポート Web サイトで入手可能です。

<http://www.ibm.com/software/commerce/support/>

本書の表記規則

本書では、以下のような強調規則を使用しています。

| | |
|--------------------|--|
| 太字体 | コマンドや、フィールド名、アイコン名、またはメニュー選択などのグラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) を示します。 |
| モノスペース (Monospace) | ファイル名、ディレクトリー・パス、ディレクトリーなど、そのとおりに入力する必要があるテキストの例を示します。 |
| イタリック体 | 語を強調するために使用します。またイタリック体は、システムに合わせて適切な値に置換する必要がある名前を示します。 |



このアイコンはヒントのマークであり、タスクの実行に役立つ追加情報が示されます。

重要

この項は、特に重要な情報を強調しています。

注意

この項は、データの保護を目的とした情報に重点を置いています。

パス変数

本書では、ディレクトリー・パスを表すために以下の変数を使用しています。

DB2_installdir

これは DB2 Universal Database™ のインストール・ディレクトリーです。デフォルトのインストール・ディレクトリーは `/opt/IBM/db2/V8.1` です。

HTTPServer_installdir

これは IBM HTTP Server のインストール・ディレクトリーです。デフォルトのインストール・ディレクトリーは `/opt/IBMHttpServer` です。

WAS_installdir

これは WebSphere Application Server のインストール・ディレクトリーです。デフォルトのインストール・ディレクトリーは `/opt/WebSphere/AppServer` です。

WC_installdir

これは WebSphere Commerce のインストール・ディレクトリーです。デフォルトのインストール・ディレクトリーは `/opt/WebSphere/CommerceServer55` です。

必要な知識

本書は、システム管理者または WebSphere Commerce - Express のインストールおよび構成の担当者を対象としています。

WebSphere Commerce - Express をインストールおよび構成するユーザーは、以下の領域に関する知識を持っている必要があります。

- Linux
- オペレーティング・システムの基本コマンド
- DB2 Universal Database
- IBM HTTP Server 操作および保守
- SQL の基本コマンド
- インターネット

ストアを作成してカスタマイズするには、以下の知識が必要です。

- WebSphere Application Server
- DB2 Universal Database

- HTML および XML
- 構造化照会言語 (SQL)
- Java™ プログラミング

ストアまたはモールのカスタマイズの詳細については、「*WebSphere Commerce プログラミング・ガイドとチュートリアル*」を参照してください。本書のコピーには、WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Studio の両方が含まれています。

目次

| | |
|---------|-----|
| 本書について | iii |
| 資料の説明 | iii |
| 本書の更新 | iii |
| 本書の表記規則 | iii |
| パス変数 | iv |
| 必要な知識 | iv |

第 1 部 WebSphere Commerce - Express のインストールの準備 1

第 1 章 WebSphere Commerce - Express の紹介 3

| | |
|---|---|
| WebSphere Commerce - Express に組み込まれている製品 | 3 |
| すでにインストール済みのコンポーネント | 4 |
| IBM HTTP Server バージョン 1.3.26.2 | 4 |
| サポートされる Web ブラウザー | 5 |
| WebSphere Commerce - Express によって使用されるポート番号 | 6 |
| WebSphere Commerce - Express によって使用されるロケール | 7 |

第 2 章 プリインストール要件 9

| | |
|------------------------------------|----|
| 前提条件となるハードウェア | 9 |
| Intel ベース・システム上の Linux のハードウェア前提条件 | 9 |
| 前提条件となるソフトウェア | 9 |
| Intel ベース・システム上の Linux のソフトウェア前提条件 | 9 |
| ネットワーク構成要件 | 10 |
| README ファイルの確認 | 11 |
| その他の要件 | 11 |

第 3 章 推奨トポロジー 13

| | |
|--|----|
| 1 ノード・トポロジー | 13 |
| 1 ノード・トポロジーでの WebSphere Commerce - Express のインストール | 13 |
| 3 ノード・トポロジー | 17 |
| 3 ノード・トポロジーでの WebSphere Commerce - Express のインストール | 19 |
| 開発環境トポロジー | 20 |

第 4 章 WebSphere Commerce - Express のインストール方法 21

第 2 部 データベースのインストール 23

第 5 章 WebSphere Commerce - Express を用いたローカル・データベースの使用 25

| | |
|---|----|
| ローカル WebSphere Commerce - Express データベースとしての DB2 Universal Database の使用 | 25 |
| 次のステップ | 25 |

第 6 章 WebSphere Commerce - Express を用いたローカル・データベースの使用 27

| | |
|---|----|
| リモート WebSphere Commerce - Express データベースとしての DB2 Universal Database の使用 | 27 |
| 次のステップ | 27 |

第 3 部 WebSphere Commerce - Express のインストール 29

第 7 章 WebSphere Commerce - Express のインストール前に 31

| | |
|---|----|
| 必要な WebSphere Application Server ユーザーとグループの作成 | 31 |
| プリインストール・チェックリスト | 32 |

第 8 章 インストールに必要な ID のクイック・リファレンス 35

| | |
|------------------------------------|----|
| インストール・ウィザードを完了するために必要なユーザー ID | 36 |
| DB2 Universal Database ユーザー ID の要件 | 37 |

第 9 章 カスタム・インストールの実行 39

| | |
|----------------|----|
| カスタム・インストールの実行 | 41 |
| 次のステップ | 44 |

第 10 章 インストールの検証 45

| | |
|---|----|
| DB2 Universal Database インストール・ログ | 45 |
| WebSphere Application Server インストール・ログ | 46 |
| WebSphere Commerce - Express のインストール・ログ | 46 |
| 次のステップ | 46 |

第 4 部 WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成 47

第 11 章 構成マネージャーを使用してインスタンスを作成または変更する前に . . . 49

| | |
|---------------|----|
| 構成マネージャーの前提条件 | 49 |
| 構成マネージャーの開始 | 50 |

| | |
|--|-----------|
| 次のステップ | 52 |
| 第 12 章 WebSphere Commerce インスタンスの作成 | 53 |
| 新規 WebSphere Commerce インスタンスの作成 | 53 |
| インスタンス作成の検証 | 54 |
| 次のステップ | 55 |
| 第 13 章 WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成 | 57 |
| 新規 WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成 | 57 |
| インスタンスの作成の検証 | 58 |
| 次のステップ | 59 |
| <hr/> | |
| 第 5 部 最終ステップ | 61 |
| 第 14 章 インスタンス作成後の必須タスク | 63 |
| インスタンス作成後のローカル Web サーバー・タスク | 63 |
| インスタンス作成後のリモート Web サーバー・タスク | 63 |
| <hr/> | |
| 第 6 部 インストールおよび管理タスク | 65 |
| 第 15 章 WebSphere Commerce のタスク | 67 |
| WebSphere Commerce インスタンスの開始と停止 | 67 |
| WebSphere Commerce Payments インスタンスの開始と停止 | 67 |
| WebSphere Commerce インスタンスまたは WebSphere Commerce Payments インスタンスの変更 | 68 |
| WebSphere Commerce インスタンスの削除 | 68 |
| WebSphere Commerce Payments インスタンスの削除 | 70 |
| 第 16 章 WebSphere Application Server のタスク | 73 |
| アプリケーション・サーバーの開始および停止 | 73 |
| WebSphere Application Server 管理コンソールの開始 | 74 |
| WebSphere Application Server Web サーバー・プラグイン構成ファイルの再生成 | 74 |
| 第 17 章 リモート Web サーバー・タスク | 77 |
| Web サーバーへの plugin-cfg.xml ファイルのコピー | 77 |
| WebSphere Commerce Payments の plugin-cfg.xml ファイルのマージ | 77 |
| ストア発行後のタスク | 79 |
| 第 18 章 パスワードの設定および変更 | 81 |
| 構成マネージャー・パスワードの変更 | 81 |

| | |
|--|-----------|
| WebSphere Commerce サイト管理者パスワードの変更 | 81 |
| サイト管理者パスワードのリセット | 82 |
| サイト管理者 ID のリカバリー | 83 |
| 第 19 章 一般管理用タスク | 85 |
| コマンド行構成タスク | 85 |
| リモート DB2 データベースのカatalog | 85 |
| 第 20 章 WebSphere Commerce を管理する際に必要なユーザー ID | 87 |
| <hr/> | |
| 第 7 部 付録 | 89 |
| 付録 A. 既知の問題および制限 | 91 |
| 一般の問題および制限 | 91 |
| WebSphere Commerce コマンドを発行時にエラーを受け取った | 91 |
| インストール問題および制限 | 91 |
| コンソール・モードでインストールするとフリー・スペース・メッセージが変更されない | 91 |
| 以前のバージョンの DB2 Universal Database がインストールされているマシンで生じるインストール問題 | 91 |
| Web サーバー問題および制限 | 92 |
| セキュア (HTTPS) URL が作動しない | 92 |
| WebSphere Commerce インスタンスの問題および制限 | 92 |
| createsp.log ファイルにエラーが含まれる | 92 |
| WebSphere Commerce インストール言語以外のデフォルト言語による WebSphere Commerce インスタンスの作成 | 93 |
| インスタンスの作成中にメモリー不足エラーが発生する | 94 |
| 非 root ユーザーとしてログインすると WebSphere Commerce インスタンスが開始しない | 94 |
| ポートの競合をログに表示する | 95 |
| WebSphere Commerce Payments インスタンスの問題および制限 | 95 |
| リモート WebSphere Commerce Payments インスタンスが作動しない | 95 |
| WebSphere Commerce Payments インスタンスが開始しない | 96 |
| 非 root ユーザーとしてログインすると WebSphere Commerce Payments インスタンスが開始しない | 97 |
| 付録 B. WebSphere Commerce コンポーネントのアンインストール | 99 |
| WebSphere Commerce、WebSphere Commerce Payments、または WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントのアンインストール | 99 |
| WebSphere Application Server のアンインストール | 100 |
| IBM HTTP Server のアンインストール | 100 |
| DB2 Universal Database のアンインストール | 101 |

| | |
|--------------------------------------|------------|
| 付録 C. 情報の入手場所 | 103 |
| WebSphere Commerce 情報 | 103 |
| WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ | 103 |
| WebSphere Commerce Technical Library | 103 |
| WebSphere Commerce Payments 情報 | 103 |
| IBM HTTP Server 情報 | 105 |

| | |
|---------------------------------|-----|
| WebSphere Application Server 情報 | 105 |
| DB2 Universal Database 情報 | 105 |
| 他の IBM 資料 | 105 |

| | |
|-------------|------------|
| 特記事項 | 107 |
| 商標 | 108 |

第 1 部 WebSphere Commerce - Express のインストールの 準備

第 1 章 WebSphere Commerce - Express の紹介

このガイドは、Linux 用の IBM WebSphere Commerce - Express バージョン 5.5 のインストールおよび構成の方法について説明します。これは、システム管理者またはインストールおよび構成タスクを実行する担当者を対象としています。

重要

特に断りがない限り、本書で用いている *WebSphere Commerce* というすべての表現は、WebSphere Commerce - Express を指しています。

WebSphere Commerce - Express に組み込まれている製品

以下の製品が WebSphere Commerce - Express と共にパッケージされています。

- WebSphere Commerce - Express:
 - WebSphere Commerce サーバー。これには以下が含まれます。
 - 商品アドバイザー
 - WebSphere Commerce アクセラレーター
 - WebSphere Commerce 管理コンソール
 - WebSphere Commerce 組織管理コンソール
 - WebSphere Commerce Payments。これには、以下が組み込まれています。
 - WebSphere Commerce Payments Cassette for VisaNet
 - WebSphere Commerce Payments Cassette for BankServACH
 - WebSphere Commerce Payments Cassette for Paymentech
 - WebSphere Commerce Payments CustomOffline Cassette
 - WebSphere Commerce Payments OfflineCard Cassette
 - WebSphere Commerce Analyzer
- DB2 エクステンダー (DB2 Extenders™)。これには、以下が組み込まれています。
 - DB2 Universal Database 管理クライアント
- IBM HTTP Server バージョン 1.3.26.2
- IBM WebSphere Application Server バージョン 5.0.2

重要

すべての WebSphere Commerce - Express コンポーネントとそのサポート・ソフトウェアは、同じオペレーティング・システム上で実行する必要があります。オペレーティング・システムは、9 ページの『第 2 章 プリインストール要件』で概説されている要件を満たしている必要があります。

WebSphere Commerce - Express は、異機種混合のオペレーティング環境をサポートしていません。そのため、複数ノード・トポロジにあるすべてのノードは、9 ページの『第 2 章 プリインストール要件』に記載されている、同じバージョンとレベルのオペレーティング・システムを実行する必要があります。

すでにインストール済みのコンポーネント

このセクションでは、WebSphere Commerce バージョン 5.5 に組み込まれている IBM 製品のいずれかをすでにインストール済みの場合に実行する必要のあるタスクについて略述します。

IBM HTTP Server バージョン 1.3.26.2

テスト用の SSL (Secure Sockets Layer) プロトコルの準備

ご使用のシステムに IBM HTTP Server をすでにインストール済みの場合、SSL が使用可能になっていることを確認する必要があります。SSL が使用可能な場合、以下の URL を Web ブラウザーで開くことができます。

```
https://host_name
```

ここで *host_name* は、IBM HTTP Server を実行しているマシンの完全修飾ホスト名です。

上記の URL を開くことができない場合には、Web サーバーで SSL を使用可能にする必要があります。SSL の使用可能化の詳細については、IBM HTTP Server の資料を参照してください。

ストアをショッパーに対してオープンする前に、「*WebSphere Commerce セキュリティー・ガイド*」を読み直してください。

IBM HTTP Server バージョン 1.3.26.2 および IBM WebSphere Application Server バージョン 5.0.2

IBM HTTP Server バージョン 1.3.26.2 および IBM WebSphere Application Server バージョン 5.0.2 がすでにインストール済みの場合は、以下のようにします。

1. WebSphere Application Server プラグイン構成ファイルがあるかどうかを調べます。以下は、プラグイン構成ファイルの絶対パスです。

```
WAS_installdir/config/cells/plugin-cfg.xml
```

2. plugin-cfg.xml ファイルの存在に応じて、以下のいずれかを行います。

- plugin-cfg.xml ファイルが存在する場合、プラグインが `HTTPServer_installdir/conf/httpd.conf` ファイルに適用されていることを確認します。以下の 4 行がファイルに存在する必要があります。

```
Alias /IBMWebAS/ WAS_installdir/web/
Alias /WSsamples WAS_installdir/WSsamples/
LoadModule ibm_app_server_http_module WAS_installdir/bin/
        mod_ibm_app_server_http.so
WebSpherePluginConfig WAS_installdir/config/cells/plugin-cfg.xml
```

これらの行は一緒に表示されない可能性があります。 — これらの行が存在するかどうかを確認するためにファイル上でテキスト検索を実行することもできます。これらの行が存在しない場合、ファイルの末尾にこれらを追加して Web サーバーを再始動します。

- plugin-cfg.xml ファイルが存在しない場合、プラグインが `HTTPServer_installdir/conf/httpd.conf` ファイルに適用されていないことを確認します。以下の 4 行がファイルに存在してはなりません。以下の 4 行のいずれかが存在する場合には、それらをファイルから除去します。

```
Alias /IBMWebAS/ WAS_installdir/web/
Alias /WSsamples WAS_installdir/WSsamples/
LoadModule ibm_app_server_http_module WAS_installdir/bin/
        mod_ibm_app_server_http.so
WebSpherePluginConfig WAS_installdir/config/cells/plugin-cfg.xml
```

これらの行は一緒に表示されない可能性があります。これらの行が存在するかどうかを確認するためにファイル上でテキスト検索を実行することもできます。これらの行のいずれかが存在する場合、それを除去し、変更内容を保管してから Web サーバーを再始動してください。

サポートされる Web ブラウザー

WebSphere Commerce ツールおよびオンライン・ヘルプは、WebSphere Commerce マシンと同じネットワーク上で Windows® オペレーティング・システムを実行しているマシンから Microsoft® Internet Explorer 6.0 を使用してのみ利用できます。

Internet Explorer は、フル・バージョン 6.0 (Internet Explorer 6.0 Service Pack 1 およびインターネット・ツール) 以上であり、Microsoft— が提供する最新の重要なセキュリティ上の更新が適用されているものを使用する必要があります。それより前のバージョンでは、WebSphere Commerce ツールの機能は完全にはサポートされません。

ショッピングは、以下の Web ブラウザーのいずれかを使用して Web サイトにアクセスでき、そのすべてが WebSphere Commerce でテスト済みです。

- Windows の場合は AOL 7 以上
- 以下の Microsoft Internet Explorer
 - Windows の場合はバージョン 5.5 以上
 - Macintosh の場合はバージョン 5 以上
- Mozilla バージョン 1.0 以上
- Netscape バージョン 6.0 以上

WebSphere Commerce - Express によって使用されるポート番号

以下に、WebSphere Commerce - Express またはそのコンポーネント製品によって使用されるデフォルトのポート番号のリストを示します。 WebSphere Commerce - Express 以外のアプリケーションではこれらのポートを使用しないでください。ご使用のシステムでファイアウォールが構成されている場合には、これらのポートがアクセス可能になっていることを確認してください。

どのポートが使用中かを知るための手順については、ご使用のオペレーティング・システムの資料を参照してください。

重要

このセクションでは、WebSphere Commerce - Express の付属ソフトウェアで必要なポートだけをリストしています。 IBM 以外のソフトウェアが必要とするポート番号については、IBM 以外のソフトウェア・パッケージに関する資料を参照してください。

ポート番号

使用される

- 21** FTP ポート。このポートは、リモート Web サーバーを使用する WebSphere Commerce または WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成する場合に必要です。
- 80** IBM HTTP Server。
- 389** Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) ディレクトリー・サーバー。
- 443** IBM HTTP Server - セキュア・ポート。このセキュア・ポートには SSL が必要です。
- 1099** WebSphere Commerce 構成マネージャー・サーバー。
- 2809** WebSphere Application Server ブートストラップ・アドレス。
- 5432** WebSphere Commerce Payments 非セキュア・サーバー。
- 5433** WebSphere Commerce Payments セキュア・サーバー。このセキュア・ポートには SSL が必要です。
- 5557** WebSphere Application Server Internal Java Messaging Service サーバー。
- 5558** WebSphere Application Server Java Messaging Service サーバー・キュー・アドレス。
- 5559** WebSphere Application Server Java Messaging Service 直接アドレス。
- 7873** WebSphere Application Server DRS クライアント・アドレス。
- 8000** WebSphere Commerce ツール。このセキュア・ポートには SSL が必要です。
- 8002** WebSphere Commerce 管理コンソール。このセキュア・ポートには SSL が必要です。

- 8004** WebSphere Commerce 組織管理コンソール。このセキュア・ポートには SSL が必要です。
- 8008** IBM HTTP Server 管理ポート。
- 8880** WebSphere Application Server SOAP Connector アドレス。
- 9043** WebSphere Application Server 管理コンソール・セキュア・ポート。このセキュア・ポートには SSL が必要です。
- 9080** WebSphere Application Server HTTP トランスポート。
- 9090** WebSphere Application Server 管理コンソール・ポート。
- 9443** WebSphere Application Server HTTPS トランスポート・ポート。
- 9501** WebSphere Application Server セキュア・アソシエーション・サービス。
- 9502** WebSphere Application Server 共通セキュア・ポート。
- 9503** WebSphere Application Server 共通セキュア・ポート。
- 50000** DB2[®] サーバー・ポート。
- 60000** またはそれ以降の、少なくとも 1 つのポート。
DB2 TCP/IP 通信。

WebSphere Commerce - Express によって使用されるロケール

WebSphere Commerce - Express は、有効な Java ロケールのみを使用します。システムに、使用する言語用の適切なロケールがインストールされていることを確認してください。ロケール関連の環境変数が WebSphere Commerce サポート・ロケールを組み込むよう設定されていることを確認してください。

表 1. WebSphere Commerce - Express がサポートする Linux ロケール・コード

| 言語 | ロケール・コード | LC_ALL 値 |
|-------------|----------|----------|
| ドイツ語 | de_DE | de_DE |
| 英語 | en_US | en_US |
| スペイン語 | es_ES | es_ES |
| フランス語 | fr_FR | fr_FR |
| イタリア語 | it_IT | it_IT |
| 日本語 | Ja_JP | Ja_JP |
| 韓国語 | ko_KR | ko_KR |
| ブラジル・ポルトガル語 | pt_BR | pt_BR |
| 中国語 (簡体字) | zh_CN | zh_CN |
| 中国語 (繁体字) | zh_TW | zh_TW |

注: SuSE Linux Enterprise Server 8 オペレーティング・システムは、以下のロケールをサポートしません。

- 中国語 (繁体字) (zh_TW)

ご使用のロケールを調べるには、使用している Linux ディストリビューションに応じて、以下のコマンドを実行します。

| Linux ディストリビューション | コマンド |
|-------------------|-----------------|
| Red Hat | echo \$LANG |
| SuSE | echo \$LC_CTYPE |

使用するロケールがサポートされていない場合、使用する Linux ディストリビューションに応じて、root ユーザーとして以下のコマンド・セットの 1 つを実行して、ロケールのプロパティを変更してください。

| Linux ディストリビューション | コマンド |
|-------------------|-----------------------------------|
| Red Hat | LANG=xx_XX export LANG |
| SuSE | LC_CTYPE=xx_XX export LC_CTYPE |

ここで xx_XX は、上記の表に示されている 4 文字のロケール・コードです。大文字小文字の区別は、表のとおりでなければなりません。

第 2 章 プリインストール要件

この章では、WebSphere Commerce - Express をインストールする前に実行する必要があるステップについて説明します。ここで説明されているステップを実行するには、root ユーザー・アクセスが必要です。

前提条件となるハードウェア

WebSphere Commerce - Express のインストールの前に、以下の最低限のハードウェア要件を満たしている必要があります。

Intel ベース・システム上の Linux のハードウェア前提条件

専用の Pentium® III 733 MHz (実稼働環境ではさらに高性能のものを推奨) の IBM 互換システムには以下の要件があります。

- 各プロセッサに最低 1 GB のランダム・アクセス・メモリー (RAM)
この要件は、初期 WebSphere Commerce インスタンスおよび関連する WebSphere Commerce Payments インスタンスに対するものです。それぞれの追加の WebSphere Commerce インスタンスおよび関連する WebSphere Commerce Payments インスタンスは、プロセッサでさらに 512 MB の RAM が必要です。
- 最低 4 GB の空きディスク・スペース
- 各プロセッサに最低 1 GB のページング・スペース
この要件は、初期 WebSphere Commerce インスタンスおよび関連する WebSphere Commerce Payments インスタンスに対するものです。それぞれの追加の WebSphere Commerce インスタンスおよび関連する WebSphere Commerce Payments インスタンスは、各プロセッサにさらに 1 GB のページング・スペースが必要です。
- CD-ROM ドライブ
- グラフィック対応モニター
- マウスまたは他のポインティング・デバイス
- TCP/IP をサポートするローカル・エリア・ネットワーク (LAN) アダプター

前提条件となるソフトウェア

WebSphere Commerce - Express のインストールの前に、以下の最低限のソフトウェア要件を満たしている必要があります。

Intel ベース・システム上の Linux のソフトウェア前提条件

WebSphere Commerce - Express では、以下のいずれかのオペレーティング・システムが必要です。

- Red Hat Enterprise Linux AS (以前の Red Hat Linux Advanced Server) バージョン 2.1

次のパッケージがシステム上で使用可能であることを確認します。

– pdksh-5.2.14-13

– ncurses-5.2-12

- SuSE Linux Enterprise Server 8

次のパッケージがシステム上で使用可能であることを確認します。

– pdksh-5.2.14-532

– ncurses-5.2-402

次のコマンドを発行すると、パッケージの可用性をチェックできます。

```
rpm -qa | grep package_name
```

必要なパッケージがインストールされていない場合には、WebSphere Commerce - Express のインストールの前にそのパッケージをインストールする必要があります。

Netscape Web ブラウザーがインストールされていることを確認します。 Netscape Web ブラウザーは、WebSphere Commerce - Express のインストール前に表示される LaunchPad から得られる情報を表示するために必要です。

ネットワーク構成要件

ハードウェアおよびソフトウェアの要件に加え、システムのネットワーク構成が次の要件を満たしていることを確認してください。

- システムに解決可能なドメイン・ネームがなければなりません。

ドメイン・ネームと結合されたホスト名は、完全修飾ホスト名です。たとえば、ホスト名が *system1* でドメインが *domain.net* の場合、完全修飾ホスト名は *system1.domain.net* となります。

コマンド・プロンプト・セッションから次のコマンドを発行すると、システムの IP アドレスが返されます。

```
nslookup 'fully_qualified_host_name'
```

システムの正しい IP アドレスが戻されるのが、望ましい応答です。

- システムの IP アドレスはホスト名 (ドメインを含む) を解決する必要があります。 IP アドレスが完全修飾ホスト名にマップされたかどうかを判別するには、コマンド・プロンプト・セッションを開始して次のコマンドを発行します。

```
nslookup 'IP_address'
```

システムの完全修飾ホスト名が戻されるのが、望ましい応答です。

- 構成内の各ノードの完全修飾ホスト名を ping することによって、すべてのノードがネットワーク内の他のコンピューターからアクセスできることを確認してください。

README ファイルの確認

README ファイルの内容の確認は、WebSphere Commerce - Express のインストールにおける重要な前提条件です。README ファイルには、製品の最新の変更点に関する情報が含まれています。最新の変更には、WebSphere Commerce - Express を使用する前にインストールする必要がある追加の修正が含まれている可能性があります。

README ファイルにリストされている最新の修正をインストールしないと、WebSphere Commerce - Express は正しく機能しません。

README ファイルは、WebSphere Commerce - Express CD 1 のルート・ディレクトリにあります。README ファイルの名前は以下のとおりです。

`readme_language_code.htm`

ここで、`language_code` は次のいずれかです。

| 言語 | 言語コード |
|-------------|-------|
| ドイツ語 | de_DE |
| 英語 | en_US |
| スペイン語 | es_ES |
| フランス語 | fr_FR |
| イタリア語 | it_IT |
| 日本語 | ja_JP |
| 韓国語 | ko_KR |
| ブラジル・ポルトガル語 | pt_BR |
| 中国語 (簡体字) | zh_CN |
| 中国語 (繁体字) | zh_TW |

その他の要件

また、次の事柄も実行する必要があります。

- WebSphere Commerce - Express をインストールする前に、Web サーバー、Java アプリケーション・サーバー、および必須ではない Java プロセスが停止されていることを確認します。
- WebSphere Commerce - Express をインストールする前に、他のすべての InstallShield MultiPlatform インストーラーが完了または停止していることを確認します。
- Apache Web Server がシステムにインストールされている場合には、システムからアンインストールします。
- Lotus® Notes®、または他のサーバーをマシン上で実行している場合、サーバーを停止します。マシン上でポート 80、443、5442、5443、8000、8002、および 8004 を現在使用している Web サーバーがあれば、それを使用不可にします。

第 3 章 推奨トポロジー

この章では、WebSphere Commerce - Express コンポーネントの推奨トポロジーと、データベース・サーバーや Web サーバーなどのサポート対象ソフトウェアについて説明します。この章で説明しているトポロジーは、WebSphere Commerce - Express で最も一般的に使用されるものですが、WebSphere Commerce - Express のそれ以外のトポロジーも引き続き使用可能です。

すべてのトポロジーで、すべてのノードは同じレベルの同じオペレーティング・システムを実行している必要があります。これには、WebSphere Commerce - Express で必要とされるすべてのパッチ、リビジョン、サービス・パック、またはフィックス・パックが含まれます。

この章では、以下の用語を使用しています。

データベース・ノード

WebSphere Commerce - Express が使用するデータベース・サーバーだけを
含むトポロジーのノード。

Web サーバー・ノード

WebSphere Commerce - Express が使用する Web サーバーだけを含むトポ
ロジーのノード。

WebSphere Commerce ノード

WebSphere Commerce サーバーを含むトポロジーのノード。ノードにはデー
タベース・サーバーまたは Web サーバーが含まれる場合もありますが、ト
ポロジーに応じて、ノードに WebSphere Commerce サーバーが含まれてい
る場合、それは WebSphere Commerce ノードと呼ばれます。

1 ノード・トポロジー

1 ノード・トポロジーでは、すべての WebSphere Commerce - Express コンポーネ
ントおよびサポート対象ソフトウェアが単一のノード上にインストールされます。
これには、データベース・サーバー、Web サーバー、WebSphere Application
Server、WebSphere Commerce Payments、および WebSphere Commerce サーバーが
含まれます。

1 ノード・トポロジーでの WebSphere Commerce - Express のインストール

WebSphere Commerce を 1 ノード・トポロジーでインストールする場合、以下の 2
つのオプションがあります。

高速インストール

マシンが以下の基準を満たしている場合、WebSphere Commerce - Express
を 1 ノード・トポロジーでインストールするには、WebSphere Commerce -
Express インストール・ウィザードの高速インストール・オプションしか使
用できません。

- WebSphere Commerce - Express のいずれのバージョンまたはエディションもマシンにインストールされていない。
- DB2 Universal Database のいずれのバージョンまたはエディションもマシンにインストールされていない。
- WebSphere Application Server のいずれのバージョンまたはエディションもマシンにインストールされていない。
- IBM HTTP Server のいずれのバージョンまたはエディションもマシンにインストールされていない。

高速インストール時には、WebSphere Commerce Payments コンポーネントをインストールしないことを選択できますが、他のすべての WebSphere Commerce コンポーネントおよびサポート対象ソフトウェアはインストールされます。

高速インストールでは、すべてのコンポーネントおよびサポート対象ソフトウェアのインストール後に、WebSphere Commerce インスタンスが作成されます。WebSphere Commerce Payments のインストールを選択した場合、WebSphere Commerce Payments インスタンスが作成されます。

高速インストールの実行の手順は、「*WebSphere Commerce - Express Quick Beginnings*」に記載されています。

カスタム・インストール

以下の条件を満たしている場合、WebSphere Commerce - Express を 1 ノード・トポロジーでインストールするには、WebSphere Commerce - Express インストール・ウィザードのカスタム・インストール・オプションを使用できます。

- ノードが、WebSphere Commerce - Express のハードウェア、オペレーティング・システム、およびネットワーク要件を満たしている。
- データベース・サーバーがノードにインストール済みの場合、そのデータベース・サーバーは、WebSphere Commerce - Express がサポートするデータベース・サーバーであり、WebSphere Commerce - Express が要求するバージョン・レベルである必要があります。
- Web サーバーがノードにインストール済みの場合、その Web サーバーは、WebSphere Commerce - Express がサポートする Web サーバーであり、WebSphere Commerce - Express が要求するバージョン・レベルである必要があります。

IBM HTTP Server がノードにすでにインストールされている場合は、WebSphere Commerce - Express をインストールする前に、ノード上で以下を実行する必要があります。

- Web サーバーで SSL を使用可能にする
- WebSphere Application Server をインストールする

ノード上への WebSphere Application Server のインストールによって、そのノードに IBM HTTP Server がインストール済みの場合は、このステップは必要ありません。

- WebSphere Application Server がノードにすでにインストールされている場合には、WebSphere Application Server は WebSphere Commerce -

Express がサポートするエディションおよびバージョンの WebSphere Application Server でなければなりません。

WebSphere Application Server バージョン 5.0 またはバージョン 5.0.1 がインストールされている場合、WebSphere Commerce - Express のインストール時に、WebSphere Application Server バージョン 5.0.2 にアップグレードされます。

カスタム・インストールでは、WebSphere Commerce インスタンスまたは WebSphere Commerce Payments インスタンスは作成されません。インスタンスは、インストールの完了後に作成する必要があります。

カスタム・インストールの実行の手順は、「*WebSphere Commerce - Express Installation Guide*」に記載されています。

以下の図は、1 ノード・トポロジを示しています。



注: WebSphere Commerce 構成マネージャーは、GUI クライアントとサーバーの、2 つのコンポーネントで構成されています。構成マネージャー・サーバーおよびクライアントは、必ず WebSphere Commerce Server および WebSphere Commerce Payments と同じノードにインストールされます。

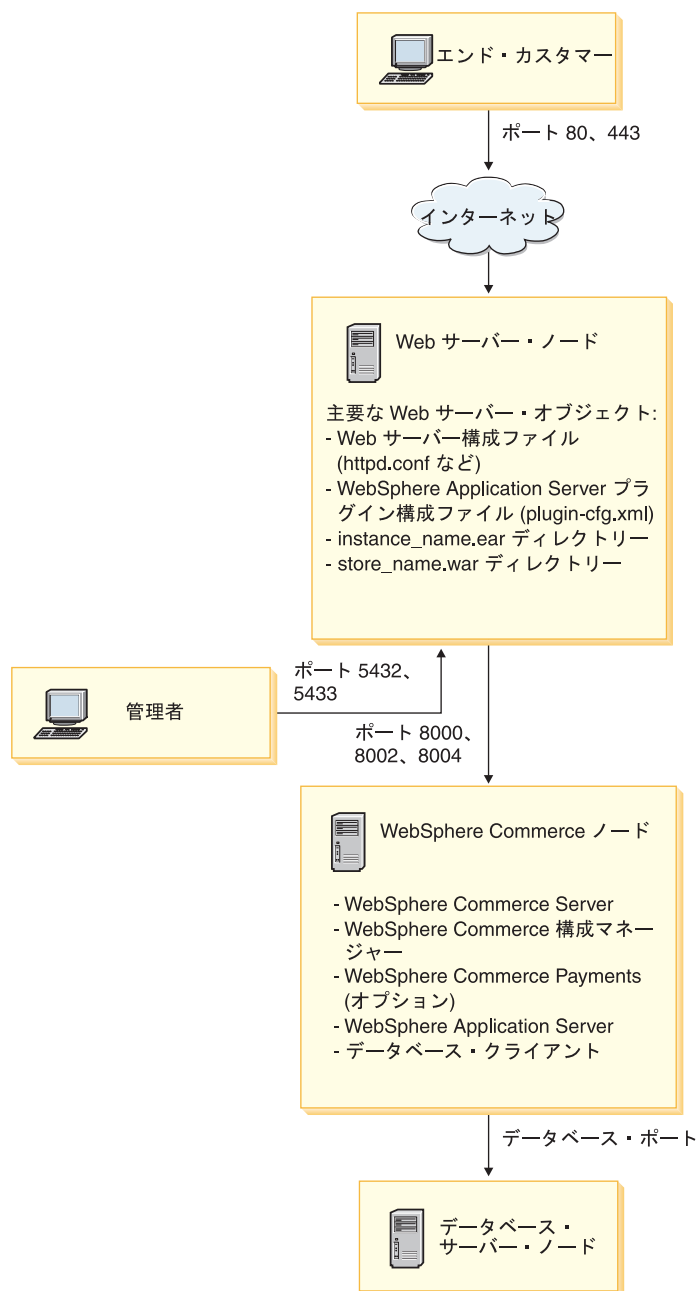
WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントは、グラフィックスを表示可能な任意のワークステーション上で実行することができます。

WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントは、インストール・ウィザードのカスタム・インストール・オプションを使用して、別個にインストールすることができます。

3 ノード・トポロジー

3 ノード・トポロジーでは、すべての WebSphere Commerce - Express コンポーネントは 1 ノード上にインストールされ、データベース・サーバーは 2 番目のノード上にインストールされ、Web サーバーは 3 番目のノードにインストールされます。

以下の図は、3 ノード・トポロジーを示しています。



注: WebSphere Commerce 構成マネージャーは、GUI クライアントとサーバーの、2つのコンポーネントで構成されています。構成マネージャー・サーバーおよびクライアントは、必ず WebSphere Commerce Server および WebSphere Commerce Payments と同じノードにインストールされます。

WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントは、グラフィックスを表示可能な任意のワークステーション上で実行することができます。

WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントは、インストール・ウィザードのカスタム・インストール・オプションを使用して、別個にインストールすることができます。

3 ノード・トポロジーでの WebSphere Commerce - Express のインストール

WebSphere Commerce - Express を 3 ノード・トポロジーでインストールするには、以下のようにします。

1. 以下の条件が満たされていることを確認します。

- 各ノードが、WebSphere Commerce - Express のハードウェア、オペレーティング・システム、およびネットワーク要件を満たしている。
- データベース・サーバーがデータベース・ノードにインストール済みの場合、そのデータベース・サーバーは、WebSphere Commerce - Express がサポートするデータベース・サーバーであり、WebSphere Commerce - Express が要求するバージョン・レベルである必要があります。
- Web サーバーが Web サーバー・ノードにインストール済みの場合、その Web サーバーは、WebSphere Commerce - Express がサポートする Web サーバーであり、WebSphere Commerce - Express が要求するバージョン・レベルである必要があります。

IBM HTTP Server がノードにすでにインストールされている場合は、WebSphere Commerce - Express をインストールする前に、ノード上で以下を実行する必要があります。

- Web サーバーで SSL を使用可能にする
- WebSphere Application Server Web サーバー・プラグインをインストールする
- WebSphere Application Server PTF 2 を適用する
- 必要な WebSphere Application Server フィックスを適用する
- WebSphere Application Server が WebSphere Commerce ノードにすでにインストールされている場合には、WebSphere Application Server は WebSphere Commerce - Express がサポートするエディションおよびバージョンでなければなりません。

WebSphere Application Server バージョン 5.0 またはバージョン 5.0.1 がインストールされている場合、WebSphere Commerce - Express のインストール時に、WebSphere Application Server バージョン 5.0.2 にアップグレードされます。

- WebSphere Commerce - Express ノードになるマシン上に、Web サーバーまたはデータベース・サーバーがインストールされていないことを確認します。このマシンには、データベース・クライアントをインストールすることは可能です。

Web サーバーまたはデータベース・サーバーが、WebSphere Commerce - Express をインストールする先のマシン上で検出された場合、インストール・ウィザードは、そのマシン上で検出された Web サーバーまたはデータベースを、WebSphere Commerce - Express と共に使用するものと想定します。

2. 必要な場合は、データベース・ノード上にデータベース・サーバーをインストールしてください。

データベース・サーバーをインストールするには、データベース・ノード上でカスタム・インストールを実行して、使用可能なコンポーネントのリストから

DB2 Universal Database を選択します。

3. 必要な場合は、Web サーバー・ノード上に Web サーバーをインストールしてください。

Web サーバーをインストールするには、Web サーバー・ノード上でカスタム・インストールを実行して、使用可能なコンポーネントのリストから **IBM HTTP Server** および **WebSphere Application Server プラグイン** を選択します。

WebSphere Commerce - Express オンライン・ヘルプを利用したい場合は、必ずこのノード上にインストールしてください。

4. 残りの WebSphere Commerce - Express コンポーネントを WebSphere Commerce ノード上にインストールします。

残りの WebSphere Commerce - Express コンポーネントをインストールするには、WebSphere Commerce ノード上でカスタム・インストールを実行して、使用可能なコンポーネントのリストから以下のコンポーネントを選択します。

- **WebSphere Commerce Server**
- **WebSphere Commerce Payments** (オプション)

WebSphere Commerce Payments のインストールはオプションです。

開発環境トポロジー

WebSphere Commerce 開発環境は、以下のトポロジーをサポートしています。

1 ノード開発トポロジー

このトポロジーでは、WebSphere Commerce 開発環境のすべてのコンポーネントが単一のノード上にインストールされます。

2 ノード開発トポロジー

このトポロジーでは、データベース・サーバーは 1 ノード上にインストールされ、他のすべての WebSphere Commerce 開発環境コンポーネントはもう 1 つのノード上にインストールされます。

3 ノード開発トポロジー

このトポロジーでは、データベース・サーバーは 1 ノード上にインストールされ、WebSphere Commerce Payments は 2 番目のノード上にインストールされ、残りの WebSphere Commerce コンポーネントは 3 番目のノードにインストールされます。

3 ノード開発トポロジーは、WebSphere Commerce Payments のフルインストールが必要なため、WebSphere Commerce 開発環境インストール・ウィザードによって直接にサポートされてはいません。開発環境で実行する WebSphere Commerce Payments は、このトポロジーではサポートされていません。

WebSphere Commerce 開発環境は、WebSphere Commerce の実動、テスト、およびステージング環境を構成するノードとは別のノードにインストールすることをお勧めします。

開発環境のインストールの手順は、「*WebSphere Commerce - Express Developer Edition Installation Guide*」に記載されています。

第 4 章 WebSphere Commerce - Express のインストール方法

この章では、WebSphere Commerce - Express を正常にインストールするために実行する必要のあるステップの概略について説明します。

WebSphere Commerce - Express のインストールおよび構成を正常に実行するには、以下のようにします。

1. WebSphere Commerce - Express の構成について計画を立てます。
構成の計画において、データベースおよび Web サーバーを含む、WebSphere Commerce - Express のさまざまなコンポーネントをインストールするマシンの数を決定する必要があります。
13 ページの『第 3 章 推奨トポロジ』にある WebSphere Commerce - Express でサポートされるインストール構成に関する説明を確認し、構成を計画する際に役立ててください。
2. 計画した構成のすべてのノードが、9 ページの『第 2 章 プリインストール要件』で概略されている前提条件を満たしていることを確認します。
3. 23 ページの『第 2 部 データベースのインストール』で述べられている情報に従って、データベースをインストールして構成します。
データベースをインストールして構成する前に、このセクションのすべての章について確認してください。
4. WebSphere Commerce - Express で必要な、オペレーティング・システムのユーザー ID およびグループを作成します。詳細については、31 ページの『必要な WebSphere Application Server ユーザーとグループの作成』を参照してください。
5. WebSphere Commerce - Express インストール・ウィザードを完成するために必要なすべての ID および情報を収集します。この情報については、35 ページの『第 8 章 インストールに必要な ID のクイック・リファレンス』で略述しています。
6. 32 ページの『プリインストール・チェックリスト』に記載されているインストール前のチェックリストに記入して、WebSphere Commerce - Express のインストールの準備ができていることを確認します。
7. 計画上の構成と、29 ページの『第 3 部 WebSphere Commerce - Express のインストール』に記載されている情報に従って、WebSphere Commerce - Express をインストールします。
WebSphere Commerce - Express をインストールして構成する前に、このセクションのすべての章を見直してください。
8. 47 ページの『第 4 部 WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』で述べられている情報に従って、WebSphere Commerce インスタンスおよび WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成します。

重要

WebSphere Commerce インスタンスを作成する場合、サイト管理者ユーザー ID およびパスワードを作成します。このユーザー ID およびパスワードをインスタンス作成後も覚えておくのは重要なことです。これは、WebSphere Commerce 管理コンソール、WebSphere Commerce 組織管理コンソール、および WebSphere Commerce アクセラレーターにアクセスできる唯一のユーザー ID になります。

サイト管理者パスワードを忘れた場合、82 ページの『サイト管理者パスワードのリセット』にある説明に従ってパスワードをリセットできます。

サイト管理者 ID を忘れた場合には、83 ページの『サイト管理者 ID のリカバリー』にある説明に従って ID を回復できます。

9. 63 ページの『第 14 章 インスタンス作成後の必須タスク』に概略が説明されているインスタンス作成後の必須タスクを完了します。

これらのステップを完了したなら、「*WebSphere Commerce - Express Easy Start Guide*」にある説明に従ってご使用のストアを稼働させる準備ができました。

第 2 部 データベースのインストール

WebSphere Commerce - Express (Linux システム用) は DB2 Universal Database をサポートしています。このデータベースは、他の WebSphere Commerce - Express コンポーネントと同じノード上か、リモート・ノード上にインストールできます。

WebSphere Commerce - Express および WebSphere Commerce Payments と同じノード上で実行しているデータベースを使用する場合は、25 ページの『第 5 章 WebSphere Commerce - Express を用いたローカル・データベースの使用』にある手順に従ってください。

WebSphere Commerce - Express または WebSphere Commerce Payments と異なるノード上で実行しているデータベースを使用する場合は、27 ページの『第 6 章 WebSphere Commerce - Express を用いたローカル・データベースの使用』にある手順に従ってください。

第 5 章 WebSphere Commerce - Express を用いたローカル・データベースの使用

この構成では、WebSphere Commerce - Express、WebSphere Commerce Payments およびデータベース管理システムは同じノードにインストールされます。

ローカル WebSphere Commerce - Express データベースとしての DB2 Universal Database の使用

ローカル WebSphere Commerce - Express データベースとして DB2 Universal Database を使用する場合は、追加のステップは必要ありません。WebSphere Commerce インスタンス作成の一部として、DB2 Universal Database はインストールされ、WebSphere Commerce データベースは作成されて構成されます。

インストール・ウィザードのカスタム・インストール・オプションを使用して DB2 Universal Database をインストールする場合は、インストール可能コンポーネントのリストから必ず **DB2 Universal Database** を選択してください。

29 ページの『第 3 部 WebSphere Commerce - Express のインストール』にある説明に従って、WebSphere Commerce のインストールを続行します。

次のステップ

この章の説明を完了した後、29 ページの『第 3 部 WebSphere Commerce - Express のインストール』にある説明に従って、WebSphere Commerce - Express のインストールを続行します。

第 6 章 WebSphere Commerce - Express を用いたローカル・データベースの使用

この構成では、WebSphere Commerce - Express および WebSphere Commerce データベースは別々のノードにインストールされます。

リモート WebSphere Commerce - Express データベースとしての DB2 Universal Database の使用

リモート WebSphere Commerce - Express データベースとして DB2 Universal Database を使用する場合、追加のステップは必要ありません。WebSphere Commerce - Express インストール・ウィザードは、**DB2 Universal Database Server** コンポーネントが選択されていない場合、DB2 管理クライアントを WebSphere Commerce ノード上にインストールして構成します。また WebSphere Commerce - Express インストール・ウィザードは、データベース・サーバー・ノード上に DB2 Universal Database をインストールするのにも使用します。

29 ページの『第 3 部 WebSphere Commerce - Express のインストール』にある説明に従って、WebSphere Commerce - Express のインストールを続行します。

次のステップ

この章の説明を完了した後、29 ページの『第 3 部 WebSphere Commerce - Express のインストール』にある説明に従って、WebSphere Commerce のインストールを続行します。

第 3 部 WebSphere Commerce - Express のインストール

第 7 章 WebSphere Commerce - Express のインストール前に

このセクションでは、WebSphere Commerce - Express インストール・ウィザードを使用する前に完了すべき作業について説明します。WebSphere Commerce - Express インストール・ウィザードを使用する前に、以下を行う必要があります。

1. WebSphere Commerce - Express や WebSphere Commerce Payments をインストールするマシンに、WebSphere Application Server で必要なユーザー ID とグループを作成します。手順については、『必要な WebSphere Application Server ユーザーとグループの作成』を参照してください。
2. プリインストール・チェックリストを完成させ、すべてのプリインストール要件が満たされていることを確認します。プリインストール・チェックリストは 32 ページの『プリインストール・チェックリスト』にあります。

必要な WebSphere Application Server ユーザーとグループの作成

WebSphere Commerce - Express コンポーネント (WebSphere Commerce - Express、WebSphere Commerce Payments、および WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントを含む) をインストールするマシンで、以下の作業を行います。

1. root としてログオンします。
2. 非 root のユーザー ID を作成し、その新規ユーザー ID のパスワードを指定します。

WebSphere Commerce - Express と WebSphere Commerce Payments のアプリケーション・サーバー、および WebSphere Commerce 構成マネージャーのサーバーとクライアントを始動するには、このユーザー ID を使用する必要があります。root を使用してこれらのコンポーネントを開始すると、許可に関する問題が生じて、WebSphere Commerce - Express、WebSphere Commerce Payments、および WebSphere Commerce 構成マネージャー が正しく機能しなくなる原因となります。

デフォルトでは、WebSphere Commerce - Express インストール・ウィザードは **wasuser** を非 root の WebSphere Commerce ユーザー ID として指定し、**wasgroup** を非 root の WebSphere Commerce ユーザー ID のグループ ID として指定します。このユーザーとグループを作成するか、インストール・ウィザードのデフォルト値を別のユーザー ID やグループで置き換えることができます。

3. 新規のユーザー・グループを作成し、非 root のユーザー ID をその新規グループに追加します。

非 root のユーザー ID、非 root のユーザーのユーザー・グループ ID、および非 root のユーザーのホーム・ディレクトリーをメモしておいてください。この情報は、WebSphere Commerce - Express インストール・ウィザードを完了するために必要になります。

4. WebSphere Application Server の組み込みメッセージング・コンポーネントに必要なユーザー ID とグループを作成します。これらのユーザー ID とグループは、WebSphere Application Server を正しくインストールするために必要です。必要なユーザー ID とグループは、以下のように作成します。
 - a. ユーザー ID `mqm` を作成し、このユーザー ID のパスワードを指定します。
 - b. 以下のユーザー・グループを作成します。
 - `mqm`
 - `mqbrkrs`
 - c. 以下のユーザーを `mqm` ユーザー・グループに追加します。
 - `mqm`
 - `root`
 - d. 以下のユーザーを `mqbrkrs` ユーザー・グループに追加します。
 - `root`
 - e. ログオフします。
 - f. `root` としてログオンし、グループ・メンバーシップの変更を有効にします。

ユーザーの作成、ユーザー・グループの作成、およびグループへのユーザーの追加の方法については、オペレーティング・システムの資料を参照してください。

これらのユーザー ID やグループを正しくセットアップせずに WebSphere Commerce インストール・ウィザードを始動すると、インストール・ウィザードが必要なユーザーやグループの存在を検査する時点から先に進まなくなります。

プリインストール・チェックリスト

WebSphere Commerce - Express をインストールする前に、以下のチェックリストを完成させ、すべてのプリインストール要件が満たされていることを確かめます。

- 計画中のインストールに関係するすべてのシステムが、9 ページの『第 2 章 プリインストール要件』で示されているハードウェアおよびソフトウェア要件を満たしている。
- WebSphere Commerce - Express で必要なすべてのポートが使用可能になっている。WebSphere Commerce - Express で必要なポートは 6 ページの『WebSphere Commerce - Express によって使用されるポート番号』でリストされています。
- 計画中のインストールに関係するすべてのノード上のマシンで、正しいロケール・コードが設定されている。WebSphere Commerce - Express で必要なロケール・コードは 7 ページの『WebSphere Commerce - Express によって使用されるロケール』でリストされています。
- WebSphere Commerce - Express インストール・ウィザードの完了に必要なすべての ID、パスワード、パス、および他の情報が収集済みです。WebSphere Commerce - Express インストール・ウィザードの完了に必要な情報は、35 ページの『第 8 章 インストールに必要な ID のクイック・リファレンス』にリストされています。
- WebSphere Application Server の組み込みメッセージング・ユーザー ID およびグループが作成され、正しく構成されています。これらの ID、グループ、

およびその構成については、31 ページの『必要な WebSphere Application Server ユーザーとグループの作成』で扱われています。

- WebSphere Commerce - Express や WebSphere Commerce Payments を始動して実行するのに必要な非 root のユーザー ID が作成され、そのユーザー ID のパスワードが設定されています。このユーザー ID の詳細については、36 ページの『インストール・ウィザードを完了するために必要なユーザー ID』に記載されています。
- プリインストールされた Web サーバーはすべて停止している。WebSphere Commerce - Express のインストール時に Web サーバーがマシン上で稼働していると、インストールは正しく完了しません。
- Java アプリケーション・サーバーおよび必須ではない Java プロセスを停止している。
- 他の InstallShield MultiPlatform インストーラーが完了しているか、停止している。

重要

このチェックリストを完成させないと、インストールが失敗したり、WebSphere Commerce - Express やそのコンポーネントが予期しない動作を示したりします。WebSphere Commerce - Express とそのコンポーネントをインストールするシステムで、このチェックリストで示されているすべての要件を満たすことを強くお勧めします。

第 8 章 インストールに必要な ID のクイック・リファレンス

WebSphere Commerce - Express インストール・ウィザードでは、インストールを完了するために、複数の異なるユーザー ID と他の情報が求められます。WebSphere Commerce - Express のインストールを開始する前に、下の表に記入して、WebSphere Commerce - Express インストール・ウィザードを完了するときその情報がすぐ入手できるようにしておいてください。

ユーザー ID

36 ページの『インストール・ウィザードを完了するために必要なユーザー ID』の説明を検討し、この表に記入します。

| ユーザー ID の説明 | ユーザー ID | パスワード | グループ | ホーム・ディレクトリーの絶対パス |
|-------------------------------------|---------|-------|------|------------------|
| DB2 ユーザー ID | | | | |
| 非 root の WebSphere Commerce ユーザー ID | | | | |

ユーザー ID の作成、グループの作成、およびパスワードの設定については、オペレーティング・システムの資料を参照してください。

WebSphere Commerce - Express の非 root ユーザーを作成する方法については、31 ページの『必要な WebSphere Application Server ユーザーとグループの作成』に記載されています。

デフォルトでは、WebSphere Commerce - Express インストール・ウィザードは **wasuser** を非 root の WebSphere Commerce ユーザー ID として指定し、**wasgroup** を非 root の WebSphere Commerce ユーザー ID のグループ ID として指定します。このユーザーとグループを作成するか、インストール・ウィザードのデフォルト値を別のユーザー ID やグループで置き換えることができます。

必要な他のユーザーとグループ

WebSphere Commerce - Express のインストールでは、WebSphere Commerce - Express をインストールする前に特定のユーザー ID とグループが存在している必要があります。存在していないユーザーとグループを作成し、WebSphere Commerce - Express をインストールする前に必ずユーザーをグループに追加してください。

| ユーザー ID またはグループの説明 | ユーザー ID | ユーザー ID が存在しなければならぬグループ |
|--|---------|-------------------------|
| root ユーザー | root | mqrbrks, mqm |
| WebSphere Application Server の組み込みメッセージング・ユーザー | mqm | mqm |

これらのユーザー ID とグループの作成に関する詳細は、 31 ページの『必要な WebSphere Application Server ユーザーとグループの作成』に記載されています。

重要: これらのユーザー ID とグループの存在は、オプションではありません。これらの特定のユーザー ID やグループが存在しないと、インストール・ウィザードは停止します。

これらのユーザー ID やグループが存在しないためにインストール・ウィザードが停止した場合は、ユーザー ID とグループを作成してから、「戻る」をクリックし、「次へ」をクリックします。このとき、インストール・ウィザードは継続するはずですが、

インストール・ウィザードを完了するために必要なユーザー ID

WebSphere Commerce - Express のインストールを完了するには、以下の ID が定義されている必要があります。

| ユーザー ID | 説明 |
|--------------------|---|
| DB2 データベース・ユーザー ID | <p>このオペレーティング・システム ID は、WebSphere Commerce - Express で DB2 Universal Database をインストールする場合に必要です。この ID は、WebSphere Commerce - Express インストール・ウィザードを介して DB2 Universal Database をインストールする前に存在してはいけません。</p> <p>DB2 Universal Database のインストールの一部として、すべての DB2 プロセスの実行時に使用するこのユーザー ID が作成されます。</p> <p>DB2 ユーザーを作成するには、以下の情報が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none">• ユーザー ID• パスワード• このユーザー ID が属するグループ• このユーザー ID のホーム・ディレクトリーへの絶対パス <p>このユーザー ID 用の .profile スクリプトにエラーが含まれていないことを確かめてください。</p> <p>注: このユーザー ID は、37 ページの『DB2 Universal Database ユーザー ID の要件』で示されている DB2 Universal Database ユーザー ID の要件を満たしている必要があります。</p> |

| ユーザー ID | 説明 |
|-------------------------------------|--|
| WebSphere Commerce の非 root のユーザー ID | <p>この ID は、WebSphere Commerce - Express および WebSphere Commerce Payments アプリケーション・サーバーを始動するために必要です。この ID は、WebSphere Commerce - Express をインストールする前に存在している必要があります。必ず、このユーザー ID のパスワードを設定してください。</p> <p>これにより、root 特権を持つユーザーとしてアプリケーション・サーバーを実行したときに起こりうる機密漏れを防止できます。</p> <p>非 root の WebSphere Commerce ユーザー ID を作成するには、以下の情報が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ユーザー ID • このユーザー ID が属するグループ • このユーザー ID のホーム・ディレクトリーへの絶対パス <p>また、この情報は、WebSphere Commerce - Express インストール・ウィザードを完了するためにも必要になります。</p> |

WebSphere Commerce の非 root の ID を作成する方法については、31 ページの『必要な WebSphere Application Server ユーザーとグループの作成』に記載されています。

DB2 Universal Database ユーザー ID の要件

DB2 では、データベース管理者とデータベース・ユーザーのユーザー ID およびパスワードが、以下の規則に従っている必要があります。

- 長さが 8 文字を超えることはできません。
- 文字 a ~ z および 0 ~ 9 だけを含めることができます (大文字は使用できません)。
- 下線 (_) で始めることはできません。
- 大文字、小文字、または大文字小文字混合のいずれであれ、USERS、ADMINS、GUESTS、PUBLIC、または LOCAL にすることはできません。
- ユーザー ID は、大文字、小文字、または大文字小文字混合のいずれであれ、IBM、SQL、または SYS で始めることができません。

第 9 章 カスタム・インストールの実行

カスタム・インストールを実行する場合、以下の各コンポーネントを別々のノードでインストールできます。

WebSphere Commerce コンポーネント

WebSphere Commerce サーバー

このコンポーネントは、WebSphere Commerce Payments を除くすべての WebSphere Commerce - Express の機能を提供します。

このコンポーネントを選択すると、ノードに以下のものがインストールされます。

- WebSphere Commerce サーバー
- WebSphere Commerce 構成マネージャー・サーバー
- WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアント
- WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ
- WebSphere Commerce サンプル・ストア
- WebSphere Application Server 基本製品
- DB2 Universal Database アプリケーション開発クライアント (必要な場合)

ローカル DB2 Universal Database と WebSphere Commerce サーバー・コンポーネントとの使用を考えており、DB2 Universal Database がまだインストールされていない場合、インストール・ウィザードで WebSphere Commerce サーバー・コンポーネントを選択する際に、**DB2 Universal Database** コンポーネントも必ず選択します。

リモート DB2 Universal Database で WebSphere Commerce サーバー・コンポーネントを使用する場合、WebSphere Commerce サーバー・コンポーネントのインストール時に必要な余分のステップはありません。

WebSphere Commerce ファイルの例

このコンポーネントは、商品アドバイザー、Web サービスおよび Payments 用を含む、さまざまなサンプル・ファイルを提供します。

WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ

このコンポーネントは、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプ (WebSphere Commerce Payments を含む) をインストールします。このコンポーネントをインストールすると、インストール・ウィザードで選択した場所にオンライン・ヘルプ・ファイルがコピーされますが、HTTP 経由でファイルを表示するための Web サーバーはインストールされません。このファイルは、ノードのファイル・システムからファイルを開くことによってのみ表示できます。

複数ノード・トポロジーを使用する場合は、Web サーバー・ノード上にこのコンポーネントをインストールします。

WebSphere Commerce Payments

このコンポーネントは、WebSphere Commerce Payments のすべての機能をインストールします。

このコンポーネントを選択すると、ノードに以下のものがインストールされます。

- WebSphere Commerce Payments
- WebSphere Commerce 構成マネージャー・サーバー
- WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアント
- WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ
- WebSphere Application Server 基本製品
- DB2 Universal Database アプリケーション開発クライアント (必要な場合)

リモートまたはローカル DB2 Universal Database で WebSphere Commerce Payments コンポーネントを使用する場合、WebSphere Commerce Payments コンポーネントのインストール時に必要な余分のステップはありません。

注: WebSphere Commerce - Express で FashionFlow サンプル・ストアを発行することを計画している場合、WebSphere Commerce Payments をインストールする必要があります。FashionFlow サンプル・ストアの詳細については、「*WebSphere Commerce サンプル・ストア・ガイド*」を参照してください。

WebSphere Commerce Payments は、ExpressStore.sar ストア・アーカイブ・ファイルの発行には不要です。Express ストアの詳細については、「*WebSphere Commerce - Express Easy Start Guide*」を参照してください。

リモート WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアント

このコンポーネントによって、インスタンスを作成して、WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments ノードの両方からリモートで WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments を構成することができます。

サポートするソフトウェア

DB2 Universal Database

このコンポーネントを選択すると、DB2 Universal Database Express Edition がインストールおよび構成されます。このコンポーネントを選択しても、DB2 管理クライアントはノード上にはインストールされません。

IBM HTTP Server

このコンポーネントを選択すると、IBM HTTP Server がインストールおよび構成されます。これは IBM HTTP Server 用の WebSphere Application Server プラグインもインストールします。

WebSphere Application Server Web サーバー・プラグイン

このオプションは、IBM HTTP Server がシステム上で検出された場合にのみ選択可能です。

このコンポーネントを選択すると、IBM HTTP Server の WebSphere Application Server Web サーバー用の Web サーバー・プラグインがインストールされます。

カスタム・インストールの実行

カスタム構成で WebSphere Commerce コンポーネントのすべてをインストールするには、ご使用の構成の各ノードでこのセクションのステップを繰り返してください。

ノード上でカスタム・インストールを実行するには、以下を行います。

1. root としてシステムにログオンしていることを確認してください。
2. 端末セッションから、以下のコマンドを発行します。

```
export DISPLAY=host_name:0.0
```

host_name は、インストール・ウィザードを実行したいマシンの完全修飾ホスト名です。

注: X クライアントでインストール・ウィザードを実行する場合、X クライアントは *xhost* コマンドを使用して、X サーバーにアクセスする許可を持つことが必要になる場合があります。X クライアントを許可するには、システム・コンソールから root として次のコマンドを発行します。

```
xhost +host_name
```

host_name は、インストール・ウィザードを実行したいマシンの完全修飾ホスト名です。

3. WebSphere Commerce Disk 1 CD をノードの CD-ROM ドライブに挿入します。CD-ROM ドライブをマウントしますが、マウント・ポイントへのディレクトリは変更しないでください。マウント・ポイントへのディレクトリを変更すると、CD ドライブがロックされ、CD を交換できなくなります。
4. WebSphere Commerce - Express LaunchPad を開始するには、以下のコマンドを発行します。

```
mount_point/startRun.sh
```

mount_point は CD-ROM のマウント・ポイントです。たとえば /mnt/cdrom0 などとなります。

5. WebSphere Commerce - Express LaunchPad で使用する言語を選択します。LaunchPad は以下のオプションを提供しています。

ReadMe ファイル

このオプションは WebSphere Commerce - Express README ファイルを表示します。

クイック・スタート・ガイド (Quick Beginnings Guide)

このオプションは、Adobe Acrobat Reader が LaunchPad を実行するシ

システム上にインストールされていれば、「*WebSphere Commerce - Express Quick Beginnings*」の PDF バージョンを開きます。

インストール製品 (Install Product)

このオプションは WebSphere Commerce - Express インストール・ウィザードを開始します。

製品ライブラリー (Product Library)

このオプションは、WebSphere Commerce ライブラリー Web サイトを表示するデフォルトの Web ブラウザーをオープンします。

サポート (Support)

このオプションは、WebSphere Commerce サポート Web サイトを表示するデフォルトの Web ブラウザーをオープンします。

終了 (Exit)

このオプションは LaunchPad を終了します。

6. ランチ・パッドからインストール・ウィザードを開始していない場合、`root` として以下のコマンドのいずれかを実行します。

```
mount_point/setup_linux
```

または

```
mount_point/setup_linux -console
```

`mount_point` は CD-ROM マウント・ポイントです。たとえば、`/mnt/cdrom0` です。

`-console` パラメーターを使用すると、テキスト・ベースのインストール・ウィザードが開始します。テキスト・ベースのインストール・ウィザードおよび GUI ベースのインストール・ウィザードのステップは同じですが、オプションの選択およびインストール・ウィザードの続行の仕方は異なります。

このセクションでは、オプションの選択および続行に関する手順は、GUI ベースのインストール・ウィザードについてのみ記載しています。テキスト・ベースのインストール・ウィザードを使用してオプションを選択したりウィザードを続行するには、テキスト・ベースのインストール・ウィザードによって提供されるプロンプトに従ってください。



ディレクトリーを CD-ROM マウント・ポイントに変更しないでください。そうすると、インストール・ウィザードによってプロンプトが出された際に、CD-ROM ドライブの CD を交換できなくなります。

7. 言語を選択してから、「**OK**」をクリックします。

重要: ここで選択した言語は、WebSphere Commerce インスタンスのデフォルトの言語になります。ここで選択した言語とは異なるデフォルトの言語で WebSphere Commerce インスタンスを作成しようとする、WebSphere Commerce インスタンスには無効なデータが取り込まれます。

8. 「ウェルカム」パネルで、「次へ」をクリックします。
9. 「ソフトウェア使用許諾契約書 (Software License Agreement)」ページが表示されます。「ソフトウェア使用許諾契約書 (Software License Agreement)」ページの使用許諾契約書を確認します。

使用許諾契約書の条件を受諾する場合、「**I accept the terms in the license agreement (使用条件の条項に同意します)**」を選択して、「次へ」をクリックし、使用許諾契約の条件を受諾します。

使用許諾契約の条件を受け入れない場合、「**I do not accept the terms in the license agreement (使用条件の条項に同意しません)**」を選択して、「次へ」をクリックします。使用許諾契約書を拒否すると、インストール・プログラムは終了します。

10. 使用許諾契約書に同意すると、「インストール・タイプ」パネルが表示されます。「**カスタム・インストール**」を選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。

11. ノードにインストールするコンポーネントを選択します。「次へ」をクリックして先へ進みます。

各コンポーネントの説明はこの章の最初の方に記載されています。

12. 選択したコンポーネントに応じて、インストール・ウィザードの残りのパネルでさまざまな情報の入力が必要とされます。各パネルでフィールド内の情報を完了して、「次へ」をクリックし、次のパネルへ進みます。

インストール・ウィザードを完了するために必要な値の説明は、35ページの『第8章 インストールに必要な ID のクイック・リファレンス』に記載されています。

情報を要求するパネルが完了すると、確認ページが表示されます。

13. 確認ページで、インストールするコンポーネントとそのインストール場所を確認します。変更を加える場合は、「戻る」ボタンを使用して、変更するパネルに戻ります。

確認ページでリストされているコンポーネントのインストールを開始するには、「次へ」をクリックします。

14. プロンプトに従って CD を挿入し、CD の場所を入力します。

コンポーネントのインストール中には、コンポーネントのインストールの進行状況を示すパネルが表示されます。この時点でさらに別のプロンプトが表示されたら、それに従います。

注:

- a. CD または CD イメージの場所を UNC パスとして指定しないでください (たとえば、`¥¥system1¥¥locations`)。マップされたドライブ名を使用できます。
 - b. WebSphere Application Server CD は、ローカル CD-ROM ドライブで使用できるか、またはローカル・ハード・ディスク上のイメージとして使用できなければなりません。WebSphere Application Server CD のネットワーク・ロケーションを指定すると、インストールの失敗の原因となります。
15. 要約パネルが表示されたら、選択したコンポーネントのインストールが完了したことになります。「次へ」をクリックして先へ進みます。
 16. 「終了」をクリックしてインストール・ウィザードを終了します。
 17. インストール・ウィザードの開始前に使用不可にしたウイルス検査ソフトウェアを、再び使用可能にします。

次のステップ

カスタム・インストールを完了したら、以下のようにします。

1. README ファイルをまだ読んでいなければ、読み直して、README ファイルに記載されているその他のすべてのフィックスをインストールします。
README ファイルの詳細については、11 ページの『README ファイルの確認』を参照してください。
2. 45 ページの『第 10 章 インストールの検証』の手順に従って、インストールを検証してください。

第 10 章 インストールの検証

WebSphere Commerce およびそのコンポーネントのインストール時には、ログ・ファイルが生成されます。次のログ・ファイルを調べ、正常にインストールされたことを確認します。

- 『DB2 Universal Database インストール・ログ』
- 46 ページの 『WebSphere Application Server インストール・ログ』
- 46 ページの 『WebSphere Commerce - Express のインストール・ログ』

IBM 以外のソフトウェアのインストールを確認するには、その IBM 以外のソフトウェア・パッケージで提供されている資料を参照してください。

DB2 Universal Database インストール・ログ

このログには、DB2 Universal Database のインストールの際に生成されたメッセージが含まれています。このログ・ファイルのデフォルトの場所は、`WC_installdir/logs/db2setup.log` です。

ログ・ファイルの末尾付近にリストされているコンポーネントのすべての状況が Success の場合には、DB2 Universal Database は正常にインストールされています。例として、DB2 Universal Database が正常にインストールされた場合のログ・ファイルの末尾のセクションを次に示します。

```
.  
. .  
Installing DB2 file sets:.....Success  
Registering DB2 licenses:.....Success  
Setting default global profile registry variables:.....Success  
Creating the DB2 Administration Server:.....Success  
The Fast Connection Manager (FCM) base port was not specified for the instance "db2inst1".  
Default parameters will be used.  
  
Initializing instance list:.....Success  
Customizing DB2 instance configuration:.....Success  
Command to be run:  
"/opt/IBM/db2/V8.1/instance/db2icrt -a server -s ese -u db2fwc1 -p db2c_db2inst1 db2inst1".  
The instance "db2inst1" has been created successfully.  
  
The value "SVCENAME=db2c_db2inst1" was set in the DBM CFG file for the "db2inst1" instance.  
  
The value "DB2AUTOSTART=YES" was set in the Profile Registry for the "db2inst1" instance.  
  
Creating DB2 instances:.....Success  
Registering DB2 licenses:.....Success  
Configuring the DB2 Administration Server:.....Success  
Updating global profile registry:.....Success  
  
DB2 Setup log file finished at: date time
```

ご使用のログ・ファイルの内容はこれとは異なる場合もあります。

状況が Failure であるコンポーネントがログ・ファイルにある場合には、インストール・ログ・ファイルを注意深く調べ、インストール中にエラーが生じた箇所を確認します。生じたエラーを正すには、DB2 Universal Database 資料を参照してください。

本書の説明を続行する前に、DB2 Universal Database インストール・エラーを修正してください。

WebSphere Application Server インストール・ログ

WebSphere Application Server インストール・ログ・ファイルとは、次のファイルです。

`WAS_installdir/logs/log.txt`

`WAS_installdir` のデフォルト値は、iv ページの『パス変数』にリストされています。

ログ・ファイルに次のメッセージが表示されていれば、WebSphere Application Server インストールは完了です。

INSTFIN: The WebSphere 5.0 install is complete.

WebSphere Commerce - Express のインストール・ログ

このログには、WebSphere Commerce - Express インストール・ウィザードによって生成されたメッセージが含まれています。このログ・ファイルのデフォルトの場所は、次のとおりです。

`WC_installdir/logs/install_timestamp.log`

`WC_installdir` のデフォルト値は、iv ページの『パス変数』にリストされています。

次のステップ

WebSphere Commerce - Express インスタンスおよび WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成して、WebSphere Commerce のインストールと構成を続行します。インスタンスの作成については、47 ページの『第 4 部 WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』の手順に従ってください。

第 4 部 WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成

必要なすべてのソフトウェアをインストールすると、WebSphere Commerce インスタンスおよび WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成することができます。これらのインスタンスは、構成マネージャーを使用して作成することができます。

このセクションには、以下の章があります。

- 49 ページの『第 11 章 構成マネージャーを使用してインスタンスを作成または変更する前に』
- 53 ページの『第 12 章 WebSphere Commerce インスタンスの作成』
- 57 ページの『第 13 章 WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』

第 11 章 構成マネージャーを使用してインスタンスを作成または変更する前に

構成マネージャーを開始する前に、あるいは構成マネージャーを使用してインスタンスを作成または変更する前に、次の事柄を行ってください。

1. README ファイルで説明されているすべての修正をインストールしてください。README ファイルに関する詳細は、11 ページの『README ファイルの確認』を参照してください。
2. 構成マネージャーの開始に関する前提条件を満たしているか確認してください。前提条件は、『構成マネージャーの前提条件』にリストされています。
3. 50 ページの『構成マネージャーの開始』にある説明に従って、構成マネージャーを開始します。

重要

構成マネージャー GUI を使用して (Web サーバー GUI または WebSphere Application Server 管理コンソールは使用しない)、次の Web サーバー・プロパティ、および Commerce 関連プロパティのみを変更してください。

- SSL (使用可能または使用不可)
- Web サーバー・インスタンス名またはポート番号
- SSL ポート番号
- システム IP アドレス (Payments サーバー・ホスト)

これにより、単に Web サーバー構成ファイルだけでなく、すべての構成ファイルが、正しい情報で適切に更新されます。

構成マネージャーの前提条件

WebSphere Commerce 構成マネージャーを開始する前に、次のチェックリストを完了し、前提条件すべてを満たしていることを確認してください。

- 構成マネージャー・サーバーおよび構成マネージャー・クライアントを始動するシステムが、7 ページの『WebSphere Commerce - Express によって使用されるロケール』で説明されている、サポートされるロケールを使用している。
- Korn シェルを使用している。
- データベース・サーバーが稼働している。
- Web サーバーが稼働している (WebSphere Commerce と同じマシンにインストールされている場合)。
- DB2 分離ユーザー・グループが DB2 ユーザー ID に割り当てられている。

構成マネージャーの開始

WebSphere Commerce 構成マネージャーを開始するには、以下のようにします。

1. WebSphere Commerce 非 root ユーザー ID としてログインします。この ID は、WebSphere Commerce のインストール前に作成したものです。
2. 作成または変更するインスタンスに応じて、WebSphere Commerce ノードまたは WebSphere Commerce Payments ノードで以下のようにして、サーバーを開始します。
 - a. ターミナル・ウィンドウを開きます。
 - b. 以下のコマンドを実行します。

```
cd WC_installdir/bin
./config_server.sh
```

WC_installdir のデフォルト値は、iv ページの『パス変数』にリストされています。

注:

- 1) `config_server` コマンドを入力したターミナル・ウィンドウはクローズしないでください。クローズすると、構成マネージャー・サーバーが停止します。
- 2) 構成マネージャー・サーバーはバックグラウンド・プロセスで実行しないでください。そのようにすると、セキュリティの潜在的なリスクが発生します。
- 3) この時点で構成マネージャー・サーバーは、ポート 1099 で接続を listen しています。構成マネージャー・サーバーに別のポートを listen させるには、`./config_server.sh` コマンドではなく、以下のコマンドを実行します。

```
./config_server.sh -port port_number
```

ここで、*port_number* は構成マネージャー・サーバーが接続を listen するポートです。

3. 以下のいずれかを実行して、クライアントを開始します。
 - ローカル・マシン上で WebSphere Commerce 構成マネージャーを実行するには、以下のようにします。
 - a. 別のターミナル・ウィンドウを開きます。
 - b. WebSphere Commerce のインストールの前に非 root ユーザー ID が作成されたので、次のコマンドを発行します。

```
export DISPLAY=host_name:0.0
cd WC_installdir/bin
./config_client.sh [-port cm_port]
```

ここで、変数は以下のように定義されます。

cm_port

構成マネージャー・サーバーの開始時に指定したポート。

`-port` パラメーターはオプションです。`-port` パラメーターを指定しないと、構成マネージャー・クライアントは、ポート 1099 を使用して構成マネージャー・サーバーに接続しようとします。

注: X クライアントには、`xhost` コマンドを使用して、X サーバーにアクセスする許可を与えることが必要な場合があります。X クライアントを許可するには、システム・コンソールから `root` として次のコマンドを発行します。

```
xhost +host_name
```

ここで、`host_name` はインストール・ウィザードを実行するマシンの完全修飾ホスト名です。

- c. 構成マネージャーにログインします。初期 ID は **webadmin** で、初期パスワードは **webibm** です。構成マネージャーに初めてログインしたときには、パスワードを変更するように指示されます。
- リモート・マシン上で WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントを実行するには、以下のようになります。
 - a. WebSphere Commerce のインストール前に作成された非 `root` ユーザー ID でリモート・マシンにログオンします。
 - b. ターミナル・ウィンドウを開きます。
 - c. 以下のコマンドを実行します。

```
export DISPLAY=host_name:0.0  
cd WC_installdir/bin
```

- d. 構成クライアントのリモート・システムへのインストール方法に応じて、次のいずれかを実行します。
 - リモート・システムに構成マネージャー・サーバーとクライアントの両方がある場合、次のコマンドを発行します。

```
./config_client.sh -hostname cm_hostname [-port cm_port]
```
 - WebSphere Commerce インストール・ウィザードのカスタム・インストール・オプションを使用して、構成クライアントをリモート・システム上にインストールした場合、次のコマンドを発行します。

```
./configClient.sh -hostname cm_hostname [-port cm_port]
```

ここで、変数は以下のように定義されます。

hostname

構成マネージャーにアクセスするマシンの完全修飾ホスト名。

cm_hostname

構成マネージャー・サーバー・マシンの完全修飾ホスト名。

cm_port

構成マネージャー・サーバーの開始時に指定したポート。

`-port` パラメーターはオプションです。 `-port` パラメーターを指定しないと、構成マネージャー・クライアントは、ポート 1099 を使用して構成マネージャー・サーバーに接続しようとします。

`WC_installdir` のデフォルト値は、iv ページの『パス変数』にリストされています。

注: X クライアントには、`xhost` コマンドを使用して、X サーバーにアクセスする許可を与えることが必要な場合があります。X クライアントを許可するには、システム・コンソールから `root` として次のコマンドを発行します。

```
xhost +host_name
```

ここで、`host_name` はインストール・ウィザードを実行するマシンの完全修飾ホスト名です。

- e. 構成マネージャーにログインします。初期 ID は **webadmin** で、初期パスワードは **webibm** です。構成マネージャーに初めてログインしたときには、パスワードを変更するように指示されます。

次のステップ

このセクションのステップが完了したら、以下のセクションに進みます。

- 53 ページの『第 12 章 WebSphere Commerce インスタンスの作成』
- 57 ページの『第 13 章 WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』

第 12 章 WebSphere Commerce インスタンスの作成

この章では、WebSphere Commerce インスタンスの作成方法について説明します。WebSphere Commerce インスタンスの変更については、68 ページの『WebSphere Commerce インスタンスまたは WebSphere Commerce Payments インスタンスの変更』を参照してください。

新規 WebSphere Commerce インスタンスの作成

新規 WebSphere Commerce インスタンスを作成するには、次のようにします。

1. WebSphere Commerce 構成マネージャーを開始します。詳細については、50 ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。
2. 「**WebSphere Commerce**」の下の、*hostname* を拡張表示します。
3. 「**Commerce**」を拡張表示します。
4. 「**インスタンス・リスト**」を右マウス・ボタン・クリックします。
5. その結果表示されたポップアップ・メニューから、「**インスタンスの作成**」を選択します。インスタンス作成ウィザードを開始します。
6. インスタンス作成ウィザードを完了します。



インスタンス作成ウィザードのパネルおよびフィールドを完成させるためのヘルプを参照するには、インスタンス作成ウィザードの「ヘルプ」をクリックします。「ヘルプ」ボタンは、ウィザードの各パネルで使用できます。「ヘルプ」パネルは、サポートされる WebSphere Commerce プラットフォームすべてに適用されます。

7. パネル内の必要な情報を完成させると、「**終了**」ボタンが有効になります。「**終了**」をクリックして WebSphere Commerce インスタンスを作成します。

インスタンスを作成するのに必要な時間は、システムの速度に応じて異なります。インスタンスの作成を開始する際に表示される進行状況表示バーは、この処理が終了する時を示します。

8. インスタンスの作成が完了したら、要約を示したダイアログ・ボックスが表示されます。「**OK**」をクリックして、ダイアログ・ボックスをクローズします。
9. 追加の手順を示す他のダイアログ・ボックスが表示されることがあります。その場合はそのダイアログ・ボックスの内容を確認してから閉じてください。
10. 「**コンソール**」および「**終了**」をクリックして、構成マネージャーを終了します。

54 ページの『インスタンス作成の検証』の手順に従って、WebSphere Commerce インスタンスの作成を検証できます。

インスタンス作成の検証

新規の WebSphere Commerce インスタンスに関する構成情報は、以下のファイルに保管されます。

`WC_installdir/instances/instance_name/xml/instance_name.xml`

ここで、`WC_installdir` のデフォルト値は iv ページの『パス変数』にリストされており、`instance_name` は WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

インスタンス作成時に生成されたログ・ファイルを検査する前に、このファイルが存在することを確認します。

WebSphere Commerce インスタンスを作成すると、以下のログ・ファイルが生成されます。

- auction.log
- createdb.log
- createdb.db2.log
- createdb.production.log
- createsp.log
- createsp.err.log
- EnterpriseApp.log
- GenPluginCfg.log
- populatedb.err.log
- populatedb.log
- populatedb2.err.log
- populatedb2.log
- populatedbnl.err.log
- populatedbnl.log
- reorgdb2.log
- reorgdb2.err.log
- trace.txt
- sec_check.log
- WASConfig.log
- WASConfig.err.log

これらのファイルは、以下のディレクトリーに置かれています。

`WC_installdir/instances/instance_name/logs`

ここで、`WC_installdir` のデフォルト値は iv ページの『パス変数』にリストされており、`instance_name` は WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

以下のログが空の場合は、インスタンス作成でのデータベースの移植は正常に実行されています。

- createsp.err.log
- populatedb.err.log

- populatedb2.err.log
- populatedbnl.err.log
- reorgdb2.err.log
- WASConfig.err.log

さらに、以下のログの内容を確認し、エラーが含まれていないことを確認します。

- createdb.log
- createsp.log
- createdb.db2.log

次のステップ

WebSphere Commerce インスタンスの構成が完了したら、WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成して先に進むことができます。WebSphere Commerce Payments の作成の手順は、57 ページの『第 13 章 WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』に記載されています。WebSphere Commerce Payments はオプションのコンポーネントであり、ストアの発行または実行には不要です。

WebSphere Commerce - Express で FashionFlow サンプル・ストアを発行することを計画している場合、WebSphere Commerce Payments をインストールする必要があります。FashionFlow サンプル・ストアの詳細については、「*WebSphere Commerce サンプル・ストア・ガイド*」を参照してください。

WebSphere Commerce Payments は、ExpressStore.sar ストア・アーカイブ・ファイルの発行には不要です。Express ストアの詳細については、「*WebSphere Commerce - Express Easy Start Guide*」を参照してください。

第 13 章 WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成

この章では、WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成方法について説明します。 WebSphere Commerce Payments インスタンスの変更については、68 ページの『WebSphere Commerce インスタンスまたは WebSphere Commerce Payments インスタンスの変更』を参照してください。

WebSphere Commerce Payments は WebSphere Commerce - Express のオプションのコンポーネントです。これは、ExpressStore.sar ストア・アーカイブ・ファイルの発行には不要です。ただし、FashionFlow サンプル・ストアの発行を計画している場合は必要です。

特定の WebSphere Commerce Payments Cassette の使用に関する詳細は、「WebSphere Commerce Payments Cassette 補足」を参照してください。 WebSphere Commerce Payments Cassette を WebSphere Commerce サンプル・ストアで使用するには、「WebSphere Commerce ストア開発ガイド」を参照してください。

注: 49 ページの『第 11 章 構成マネージャーを使用してインスタンスを作成または変更する前に』で述べられているように、WebSphere Application Server 管理コンソールではなく WebSphere Commerce 構成マネージャーを使用して、WebSphere Commerce Payments ポートのみを変更してください。これにより、すべてのプロパティおよびファイルは同じ情報で更新されます。

新規 WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成

新規 WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成するには、次のようになります。

1. WebSphere Commerce 構成マネージャーを開始します。詳細については、50 ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。

WebSphere Commerce Payments が WebSphere Commerce の別のノードにある場合には、構成マネージャー・サーバーを WebSphere Commerce Payments ノード上で必ず開始してください。

2. 「**WebSphere Commerce**」を拡張表示します。
3. ご使用のホスト名を拡張表示します。
4. 「**Payments**」を拡張表示します。
5. 「**インスタンス・リスト**」を右マウス・ボタン・クリックします。
6. その結果表示されたポップアップ・メニューから、「**Payments インスタンスの作成**」を選択します。 Payments インスタンス作成ウィザードを開始します。

7. Payments インスタンス作成ウィザード情報を完成させます。



Payments インスタンス作成ウィザードのパネルおよびフィールドを完成させるためのヘルプを参照するには、インスタンス作成ウィザードの「ヘルプ」をクリックします。「ヘルプ」ボタンは、ウィザードの各パネルで使用できます。「ヘルプ」パネルは、サポートされるすべての WebSphere Commerce プラットフォームに適用されます。

重要: WebSphere Commerce Payments インスタンス作成ウィザードを完了する際、「**サイト管理者 ID (Site Admin ID)**」フィールドに入力する値が WebSphere Commerce サイト管理者 ID と同じであることを確認してください。 WebSphere Commerce サイト管理者 ID は WebSphere Commerce インスタンスの作成時に作成され、 WebSphere Commerce インスタンス作成ウィザードの「**サイト管理者 ID (Site Admin ID)**」フィールドに入力した値です。

- すべてのパネル内の必要な情報すべてを完成させると、「**終了**」ボタンが有効になります。「**終了**」をクリックして WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成します。
- 既存の DB2 データベースを使用することを選択する場合、データベースを移植するかが尋ねられます。データベースを移植する場合には「**はい**」を選択し、データベースを移植しない場合には「**いいえ**」を選択します。

インスタンスを作成するのに必要な時間は、システムの速度に応じて異なります。インスタンスの作成を開始する際に表示される進行状況表示バーは、この処理が終了する時を示します。

- インスタンスの作成が完了したら、要約を示したダイアログが表示されます。「**OK**」をクリックして、ダイアログ・ウィンドウをクローズします。
ダイアログの内容を確認します。インスタンスを使用する前に実行する必要がある追加の手順が説明されている場合があります。
- 「**コンソール**」および「**終了**」をクリックして、構成マネージャーを終了します。

『インスタンスの作成の検証』の手順に従って、 WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成を検証できます。

インスタンスの作成の検証

新規の WebSphere Commerce Payments インスタンスに関する構成情報は、以下のファイルに保管されます。

```
WC_installdir/instances/instance_name/xml/instance_name.xml
```

ここで、*WC_installdir* のデフォルト値は iv ページの『パス変数』にリストされており、*instance_name* は WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

インスタンス作成時に生成されたログ・ファイルを検査する前に、このファイルが存在することを確認します。

WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成すると、以下のログ・ファイルが作成されます。

- createdb.log
- createdb.err.log

これらのファイルは、以下のディレクトリーに置かれています。

`WC_installdir/instances/instance_name/logs`

ここで、`WC_installdir` のデフォルト値は iv ページの『パス変数』にリストされており、`instance_name` は WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

`createdb.err.log` ファイルをチェックして、エラーについて確認します。

また、`createdb.log` ログ・ファイルの内容を調べて、エラーが記載されていないことを確認します。

次のステップ

WebSphere Commerce Payments インスタンスの構成が完了したら、61 ページの『第 5 部 最終ステップ』の解説を参考に、先に進むことができます。

リモート Web サーバーを使用している場合、63 ページの『第 14 章 インスタンス作成後の必須タスク』の説明に従ってください。

第 5 部 最終ステップ

このセクションでは、WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成後に実行する必要がある必須タスクについて概説しています。

このセクションのタスクを完了したら、「*WebSphere Commerce - Express Easy Start Guide*」にある手順に従ってご使用のストアを稼働させる準備ができたこととなります。

第 14 章 インスタンス作成後の必須タスク

ご使用の WebSphere Commerce - Express トポグラフィーに応じて、WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成後、以下のいずれかのセクションのタスクを実行します。

- 『インスタンス作成後のローカル Web サーバー・タスク』
- 『インスタンス作成後のリモート Web サーバー・タスク』

インスタンス作成後のローカル Web サーバー・タスク

Web サーバーを WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments と同じノードにインストールする場合、WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成後、Web サーバーを停止してから再始動する必要があります。

インスタンス作成後のリモート Web サーバー・タスク

Web サーバーを WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments と異なるノードにインストールする場合、WebSphere Commerce または WebSphere Commerce Payments インスタンスを作成してから、次の事柄を実行してください。

1. `plugin-cfg.xml` を WebSphere Commerce ノードから Web サーバー・ノードにコピーします。手順については、77 ページの『Web サーバーへの `plugin-cfg.xml` ファイルのコピー』を参照してください。
2. WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments が別々のノードにインストールされている場合には、WebSphere Commerce Payments ノードの `plugin-cfg.xml` ファイルの内容と Web サーバー・ノードの `plugin-cfg.xml` の内容をマージします。手順については、77 ページの『WebSphere Commerce Payments の `plugin-cfg.xml` ファイルのマージ』を参照してください。
3. WebSphere Commerce ノード上の `WAS_installdir` ディレクトリーと一致するディレクトリーを Web サーバー・ノードに作成します (存在しない場合)。
4. 次のディレクトリーを、WebSphere Commerce ノードから Web サーバー・ノードにコピーします。

```
WAS_installdir/installedApps/cell_name/WC_instance_name.ear
```

ここで、変数は次のように定義されています。

WAS_installdir

この変数のデフォルト値は、iv ページの『パス変数』にリストされています。

cell_name

これは、WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments がインストールされているマシンの短縮ホスト名です。

Commerce_instance_name

これは、WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

Web サーバー・ノードと WebSphere Commerce ノードの絶対パスは同じであることを確認してください。Web サーバー・ノード上でこのパスを構成するディレクトリーを作成することが必要になる場合があります。

重要

すべての JSP および JAR ファイルを、Web サーバー上の WC_instance_name.ear ディレクトリーから除去することが推奨されています。内容が固定されたファイルのみを、Web サーバー上の WC_instance_name .ear ディレクトリーに入れるようにしてください。

5. httpd.conf ファイルの次の行がコメント化されていないことを確認します。

```
AddModule mod_ibm_ssl.c
```

```
Listen 80
```

6. WebSphere Application Server プラグインのパスが Web サーバー・ノードの httpd.conf ファイルに正しく表示されていることを確認します。

パスを検査するには、テキスト・エディターで httpd.conf ファイルを開き、以下を検索します。

```
WebSpherePluginConfig
```

このエントリーには、Web サーバー・ノードの plugin-cfg.xml ファイルへの絶対パスを含めてください。パスが間違っている場合、パスを変更して httpd.conf ファイルを保管してから、Web サーバーを再始動します。

7. Web サーバーを停止してから再始動します。

第 6 部 インストールおよび管理タスク

このセクションでは、WebSphere Commerce のインストールおよび管理の際に実行する必要のあるさまざまなタスクの手順を説明しています。

第 15 章 WebSphere Commerce のタスク

このセクションでは、WebSphere Commerce をインストールおよび管理する時に完了する必要がある WebSphere Commerce タスクの説明をしています。

WebSphere Commerce インスタンスの開始と停止

WebSphere Commerce インスタンスを開始または停止するには、以下のようになります。

1. データベース管理システムが開始済みであることを確認します。
2. Web サーバーが開始済みであることを確認します。
3. 開始したい WebSphere Commerce インスタンス用のアプリケーション・サーバーを開始、停止、または再始動します。アプリケーション・サーバーの開始および停止についての説明は、73 ページの『アプリケーション・サーバーの開始および停止』にあります。

注: 初めてインスタンスを開始する時、開始に時間がかかります。この待ち時間は、Java プログラムに関する情報をキャッシュするために発生します。待ち時間は長くなるがありますが、それ以降の試行では開始時間は改善します。

WebSphere Commerce Payments インスタンスの開始と停止

WebSphere Commerce Payments インスタンスを開始または停止するには、以下のようになります。

1. データベース管理システムが開始済みであることを確認します。
2. Web サーバーが開始済みであることを確認します。
3. 構成マネージャーを開始します。構成マネージャーの開始に関する手順は、50 ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。
4. 構成マネージャーの **WebSphere Commerce** の下で、「**Host名**」 → 「**Payments**」 → 「**インスタンス・リスト**」 の順に拡張表示します。
5. 開始または停止したい WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前を右マウス・ボタン・クリックします。
 - WebSphere Commerce Payments インスタンスを開始するには、ポップアップ・メニューから 「**Payments インスタンスの開始**」 を選択します。「インスタンスは正常に開始されました」 ダイアログが表示されたら、「**OK**」をクリックしてダイアログを消します。
 - WebSphere Commerce Payments インスタンスを停止するには、ポップアップ・メニューから 「**Payments インスタンスの停止**」 を選択します。

注: 初めてインスタンスを開始する時、開始に時間がかかります。この待ち時間は、Java プログラムに関する情報をキャッシュするために発生します。待ち時間は長くなるがありますが、それ以降の試行では開始時間は改善します。

WebSphere Commerce インスタンスまたは WebSphere Commerce Payments インスタンスの変更

WebSphere Commerce インスタンスのいずれかの構成設定を変更したい場合、構成マネージャーから行うことができます。

構成マネージャーを使用して WebSphere Commerce インスタンスを更新するには、以下のようにします。

1. データベース管理システムが開始済みであることを確認します。
2. 構成マネージャーを開始します。構成マネージャーの開始に関する手順は、50 ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。
3. インスタンスのリストから、構成するインスタンスを選択し、設定を変更するノードを選択します。構成マネージャーのさまざまなフィールドやパネルについての情報は、構成マネージャーのオンライン・ヘルプを参照してください。
4. インスタンスの更新後、「適用」をクリックして変更を適用します。
5. 変更が正常に適用された時、構成マネージャー・クライアントを終了します。これにより、構成マネージャー・サーバーも終了します。
6. 変更したインスタンスを再始動します。

WebSphere Commerce インスタンスの削除

WebSphere Commerce インスタンスを削除するには、以下のようにします。

1. WebSphere Commerce が停止していることを確認します。WebSphere Commerce の停止についての説明は、67 ページの『WebSphere Commerce インスタンスの開始と停止』を参照してください。
2. 以下のディレクトリーにある、重要なファイルやカスタマイズされたファイルをバックアップします。

```
WC_installdir/instances/instance_name  
WAS_installdir/logs/WC_instance_name  
WAS_installdir/installedApps/hostname/WC_instance_name.ear
```

ここで、*instance_name* は、削除する WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

3. 以下のようにして、構成マネージャーから WebSphere Commerce インスタンスを削除します。
 - a. 構成マネージャーを開始します。構成マネージャーの開始に関する手順は、50 ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。
 - b. 構成マネージャーの **WebSphere Commerce** の下で、「hostname」→「Commerce」→「インスタンス・リスト」の順に拡張表示します。
 - c. 削除するインスタンスを右マウス・ボタン・クリックし、「インスタンスの削除」を選択します。
 - d. 処理が完了したら構成マネージャーを終了します。
4. 削除する WebSphere Commerce インスタンスに関連した WebSphere Commerce データベースを除去します。

削除する WebSphere Commerce インスタンスに関連した WebSphere Commerce データベースがリモート・データベースである場合、DB2 コマンド・セッションから以下のコマンドを実行します。

```
db2 attach to remote_db_node_name
```

WebSphere Commerce データベースを除去するには、DB2 コマンド・ウィンドウから以下のコマンドを実行します。

```
db2 drop db db_name  
db2 uncatalog db db_name
```

ここで、*db_name* は WebSphere Commerce データベースの名前です。

5. 以下のディレクトリーのいずれかが存在する場合、それらを削除します。

```
WC_installdir/instances/instance_name  
WAS_installdir/logs/WC_instance_name
```

ここで、*instance_name* は、削除済み WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

6. (オプション) 削除中のインスタンスと同じ名前で、後で新規 WebSphere Commerce を作成する計画をしている場合、以下のディレクトリーがまだ存在しているなら削除します。

```
WAS_installdir/installedApps/hostname/WC_instance_name.ear
```

7. 以下のようにして、IBM HTTP Server `httpd.conf` ファイルからすべての WebSphere Commerce 情報を除去します。

- a. テキスト・エディターで `httpd.conf` を開きます。
- b. 以下のテキストで区切られたすべてのセクションを除去します。
IBM WebSphere Commerce (Do not edit this section)

```
# End of IBM WebSphere Commerce (Do not edit this section) #
```

ファイル内にはそのテキストで区切られた複数のセクションがあります。

- c. 変更を保管し、テキスト・エディターを終了します。
- d. IBM HTTP Server ノードが WebSphere Commerce ノードに対してリモートである場合、IBM HTTP Server ノード上の以下のディレクトリーを削除します。

```
WAS_installdir/installedApps/hostname/WC_instance_name.ear
```

ここで、*instance_name* は、削除中の WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

- e. Web サーバーを再始動します。
8. WebSphere Commerce インスタンスの削除後に他の WebSphere Application Server アプリケーション・サーバーを使用する予定の場合、WebSphere Application Server プラグイン構成ファイルを再生成する必要があります。WebSphere Application Server プラグイン構成ファイルの再生成に関する情報は、74 ページの『WebSphere Application Server Web サーバー・プラグイン構成ファイルの再生成』を参照してください。

WebSphere Commerce Payments インスタンスの削除

WebSphere Commerce Payments インスタンスを削除するには、以下のようにします。

1. WebSphere Commerce Payments が停止していることを確認します。手順については、67 ページの『WebSphere Commerce Payments インスタンスの開始と停止』を参照してください。
2. 以下のようにして、構成マネージャーから WebSphere Commerce Payments インスタンスを削除します。
 - a. 構成マネージャーを開始します。構成マネージャーの開始に関する手順は、50 ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。
 - b. 構成マネージャーの **WebSphere Commerce** の下で、「**ホスト名**」 → 「**Payments**」 → 「**インスタンス・リスト**」の順に拡張表示します。
 - c. 削除するインスタンスを右マウス・ボタン・クリックし、「**Payments インスタンスの削除**」を選択します。
 - d. 処理が完了したら構成マネージャーを終了します。

このステップでは、WebSphere Commerce Payments アプリケーション・サーバーも削除されます。

3. 削除する WebSphere Commerce Payments インスタンスに関連した WebSphere Commerce Payments データベースを除去します。

削除する WebSphere Commerce Payments インスタンスに関連した WebSphere Commerce Payments データベースがリモート・データベースである場合、DB2 コマンド・セッションから以下のコマンドを実行します。

```
db2 attach to remote_db_node_name
```

WebSphere Commerce Payments データベースを除去する場合、DB2 コマンド・ウィンドウから以下のコマンドを実行します。

```
db2 drop db db_name  
db2 uncatalog db db_name
```

ここで、*db_name* は WebSphere Commerce Payments データベースの名前です。

4. 以下のディレクトリが存在する場合、それらを削除します。

```
WC_installdir/instances/instance_name  
WC_installdir/payments/instances/instance_name  
WAS_installdir/logs/instance_name_Commerce_Payments_Server  
WAS_installdir/installedApps/hostname/instance_name_Commerce_Payments_App.ear
```

ここで *instance_name* は、削除する WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

5. 以下のようにして、IBM HTTP Server httpd.conf ファイルからすべての WebSphere Commerce Payments 情報を除去します。
 - a. テキスト・エディターで httpd.conf を開きます。
 - b. 以下のテキストで区切られたすべてのセクションを除去します。

```
# IBM WebSphere Payments (Do not edit this section) #
```

```
# End of IBM WebSphere Payments (Do not edit this section) #
```

ファイル内にはそのテキストで区切られた複数のセクションがあります。

- c. 変更を保管し、テキスト・エディターを終了します。
6. WebSphere Commerce Payments インスタンスの削除後に他の WebSphere Application Server アプリケーション・サーバーを使用する予定の場合、WebSphere Application Server プラグイン構成ファイルを再生成する必要があります。WebSphere Application Server プラグイン構成ファイルの再生成に関する情報は、74 ページの『WebSphere Application Server Web サーバー・プラグイン構成ファイルの再生成』を参照してください。

第 16 章 WebSphere Application Server のタスク

このセクションでは、WebSphere Commerce をインストールおよび管理する時に完了する必要がある WebSphere Application Server タスクの説明をしています。

アプリケーション・サーバーの開始および停止

アプリケーション・サーバーを開始または停止するには、次のようにします。

1. データベース管理システムが開始済みであることを確認する。
2. 端末ウィンドウで以下のコマンドを入力する。

```
su - non_root_user  
cd WAS_installdir/bin
```

non_root_user

WebSphere Commerce をインストールする前に作成された root ではないユーザー ID です。

WAS_installdir

WebSphere Application Server のインストール・ディレクトリーです。
WAS_installdir のデフォルト値は、iv ページの『パス変数』にリストされています。

3. 以下のいずれかを行う。
 - アプリケーション・サーバーを開始するには、以下のコマンドを入力する。
`./startServer.sh application_server_name`
 - アプリケーション・サーバーを停止するには、以下のコマンドを入力する。
`./stopServer.sh application_server_name`

ここで、

application_server_name

開始するアプリケーション・サーバーの名前です。

| アプリケーション・サーバー名 | 説明 |
|-------------------------|---|
| <i>WC_instance_name</i> | WebSphere Commerce アプリケーション・サーバー |
| server1 | デフォルトの WebSphere Application Server アプリケーション・サーバー |

ここで、*instance_name* は WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

WebSphere Application Server 管理コンソールの開始

WebSphere Application Server 管理コンソールを開始する前に、デフォルトの WebSphere Application Server アプリケーション・サーバー (server1) を開始する必要があります。手順については、73 ページの『アプリケーション・サーバーの開始および停止』を参照してください。

Web ブラウザーをオープンし、以下の URL を入力することにより、WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンする。

```
http://hostname:port/admin
```

または

```
https://hostname:port/admin
```

ここで、*hostname* は WebSphere Application Server を実行中のマシンの完全修飾 TCP/IP 名で、*port* は WebSphere Application Server 管理コンソールの TCP/IP ポートです。

WebSphere Application Server 管理コンソールのデフォルト・ポートは、URL で指定されたプロトコルに依存しています。http プロトコルの場合、デフォルト・ポートは、9090 です。https プロトコルの場合、デフォルト・ポートは、9043 です。

WebSphere Application Server Web サーバー・プラグイン構成ファイルの再生成

このセクションに述べているタスクはすべて、WebSphere Commerce のインストール前に作成した root 以外のユーザーとして実行します。

Web サーバー・プラグインを再生成するには、WebSphere Commerce ノード上で以下のようにします。

1. Web サーバーに備えられている資料に従って、Web サーバーを停止する。
2. 開始済みでない場合、デフォルトのアプリケーション・サーバーである server1 を開始する。説明については、73 ページの『アプリケーション・サーバーの開始および停止』を参照してください。
3. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンする。手順については、『WebSphere Application Server 管理コンソールの開始』を参照してください。
4. ナビゲーション領域で「**環境 (Environment)**」を拡張表示し、「**Web サーバー・プラグインの更新 (Update Web Server Plugin)**」をクリックする。
5. 「**OK**」をクリックして新規 plugin-cfg.xml ファイルを生成する。
6. WebSphere Application Server 管理コンソールを終了する。
7. WebSphere Commerce Payments が別のノード上にある場合、これらすべてのステップを WebSphere Commerce Payments ノードで繰り返す。

Web サーバー・ノードが WebSphere Commerce ノードまたは WebSphere Commerce Payments ノードから離れている場合、以下を行う必要があります。

1. プラグインを WebSphere Commerce ノードから Web サーバー・ノードにコピーする。

2. WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments が別個のノードにある場合、WebSphere Commerce Payments プラグインを WebSphere Commerce プラグインにマージする。

第 17 章 リモート Web サーバー・タスク

このセクションでは、WebSphere Commerce とは異なるノードで実行している Web サーバーを使用する場合に、実行する必要のあるタスクについて説明します。

Web サーバーへの plugin-cfg.xml ファイルのコピー

plugin-cfg.xml ファイルをリモート Web サーバーにコピーするには、以下を行います。

1. Web サーバーに付属する資料に従って Web サーバーを停止します。
2. WebSphere Commerce ノードにある以下のファイルを Web サーバー・ノードの同じロケーションにコピーします。

```
WAS_installdir/config/cells/plugin-cfg.xml
```

WAS_installdir のデフォルト値は、iv ページの『パス変数』にリストされています。

重要: plugin-cfg.xml ファイルにはディレクトリー固有の情報が含まれます。ファイルを Web サーバー・ノードの同じディレクトリー構造にコピーしない場合、Web サーバーは正しく機能せず、WebSphere Commerce にアクセスできなくなります。

3. WebSphere Application Server プラグインのパスが、Web サーバー・ノード上の httpd.conf ファイルに正しく示されていることを確認します。

パスを検査するには、テキスト・エディターで httpd.conf ファイルを開き、以下を検索します。

```
WebSpherePluginConfig
```

このエントリーには、Web サーバー・ノード上の plugin-cfg.xml ファイルへの絶対パスが含まれていなければなりません。パスが誤っている場合、パスを変更してから httpd.conf ファイルを保管します。

4. Web サーバーに付属する資料に従って Web サーバーを開始します。

別々のノード上で WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Payments のカスタム・インストールを処理する場合、『WebSphere Commerce Payments の plugin-cfg.xml ファイルのマージ』に進みます。

WebSphere Commerce Payments の plugin-cfg.xml ファイルのマージ

WebSphere Commerce Payments plugin-cfg.xml ファイルを Web サーバー plugin-cfg.xml ファイルとマージするには、以下のようになります。

1. Web サーバーに付属する資料に従って Web サーバーを停止します。
2. Web サーバー・ノードで、テキスト・エディターで plugin-cfg.xml ファイルを開きます。plugin-cfg.xml ファイルの絶対パスは以下のとおりです。

```
WAS_installdir/config/cells/plugin-cfg.xml
```

`WAS_installdir` のデフォルト値は、iv ページの『パス変数』にリストされています。

3. WebSphere Commerce Payments ノードから `plugin-cfg.xml` ファイルをテキスト・エディターで開きます。 `plugin-cfg.xml` ファイルの絶対パスは以下のとおりです。

```
WAS_installdir/config/cells/plugin-cfg.xml
```

4. WebSphere Commerce Payments の `plugin-cfg.xml` ファイル内で以下のテキストを見つけます。

```
<VirtualHostGroup Name="VH_PYM_instance_name">
  <VirtualHost Name="short_host_name:5432"/>
  <VirtualHost Name="short_host_name:5433"/>
  <VirtualHost Name="host_name:5432"/>
  <VirtualHost Name="host_name:5433"/>
</VirtualHostGroup>
```

変数は以下のように定義されます。

instance_name

これは WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

short_host_name

これは WebSphere Commerce Payments ノードの短いホスト名です。

host_name

これは WebSphere Commerce Payments ノードの完全修飾ホスト名です。

5. このセクションを Web サーバーの `plugin-cfg.xml` ファイルにコピーします。このセクションを、既存の同じタイプのエントリーの下に挿入します。
6. WebSphere Commerce Payments の `plugin-cfg.xml` ファイル内で以下のテキストを見つけます。

```
<ServerCluster Name="instance_name_Commerce_Payments_Server_short_host_name_Cluster">
  <Server Name="instance_name_Commerce_Payments_Server">
    <Transport Hostname="IP_address" Port="9081" Protocol="http">
    <Transport Hostname="IP_address" Port="9091" Protocol="http">
  </Server>
  <PrimaryServers>
    <Server Name="instance_name_Commerce_Payments_Server">
  </PrimaryServers>
</ServerCluster>
```

変数は以下のように定義されます。

instance_name

これは WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

short_host_name

これは WebSphere Commerce Payments ノードの短いホスト名です。

IP_address

これは WebSphere Commerce Payments ノードの TCP/IP アドレスです。

7. このセクションを Web サーバーの `plugin-cfg.xml` ファイルにコピーします。このセクションを、既存の同じタイプのエントリーの下に挿入します。
8. WebSphere Commerce Payments の `plugin-cfg.xml` ファイル内で以下のテキストを見つけます。


```
<UriGroup Name="VH_PYM_instance_name_instance_name_Commerce_Payments_Server_short_host_name_Cluster_URIs">
  <Uri AffinityCookie="JSESSIONID" Name="/webapp/SampleCheckout/*">
  <Uri AffinityCookie="JSESSIONID" Name="/webapp/PaymentManager/*">
</UriGroup>
```

変数は以下のように定義されます。

instance_name

これは WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

short_host_name

これは WebSphere Commerce Payments マシンの短い (完全修飾ではない) ホスト名です。

- このセクションを Web サーバーの `plugin-cfg.xml` ファイルにコピーします。このセクションを、既存の同じタイプのエントリーの下に挿入します。
- WebSphere Commerce Payments の `plugin-cfg.xml` ファイル内で以下のテキストを見つけます。

```
<Route ServerCluster="instance_name_Commerce_Payments_Server_short_host_name_Cluster"
  UriGroup="VH_PYM_instance_name_instance_name_Commerce_Payments_Server_short_host_name_Cluster_URIs"
  VirtualHostGroup="VH_PYM_instance_name"/>
```

変数は以下のように定義されます。

instance_name

これは WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

short_host_name

これは WebSphere Commerce Payments マシンの短い (完全修飾ではない) ホスト名です。

- このセクションを Web サーバーの `plugin-cfg.xml` ファイルにコピーします。このセクションを、既存の同じタイプのエントリーの下に挿入します。
- 変更を保管して、テキスト・エディターを終了します。
- Web サーバーに付属する資料に従って Web サーバーを開始します。

ストア発行後のタスク

リモート Web サーバーを使用する場合、WebSphere Commerce でストアを発行するたびに以下を行う必要があります。

- Web サーバー・ノード上の `Stores.war` ディレクトリーの内容を、WebSphere Commerce 上の `Stores.war` ディレクトリーの内容に置き換えます。両方のノードの `Stores.war` ディレクトリーへの絶対パスは以下のとおりです。
`WAS_installdir/installedApps/node_name/WC_instance_name.ear/Stores.war`

変数は以下のように定義されます。

WAS_installdir

WAS_installdir のデフォルト値は、iv ページの『パス変数』にリストされています。

node_name

これは WebSphere Commerce ノードの短いホスト名です。

instance_name

これは WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

WebSphere Commerce インスタンスの作成後に、WC_*instance_name*.ear ディレクトリーは、Web サーバー・ノードにコピーされているはずです。

第 18 章 パスワードの設定および変更

WebSphere Commerce のほとんどのコンポーネントは、オペレーティング・システムによって検証されたユーザー ID およびパスワードを使用します。これらのパスワードの変更について詳しくは、ご使用のオペレーティング・システムの資料を参照してください。この章では、オペレーティング・システムを通してユーザー ID およびパスワードを検証しない WebSphere Commerce コンポーネントの、パスワードの設定および変更方法について説明します。

構成マネージャー・パスワードの変更

構成マネージャーを起動する際に、ユーザー ID およびパスワードを入力したウィンドウで「変更」をクリックすることによって、構成マネージャー・パスワードを変更できます。

別の方法で、構成マネージャー・ユーザー ID およびパスワードを変更するには、コマンド・ウィンドウで以下のコマンドを発行します。

```
WC_installdir/bin/config_env.sh
java com.ibm.commerce.config.server.PasswordChecker -action action type
  -pwfile password_file -userid user_ID
  -password password [-newpassword new_password]
```

パラメーターは以下のとおりです。

action type

有効なアクションのタイプは、「追加」、「チェック (Check)」、「削除」または「変更」です。

password_file

ファイルが保管されるファイルへのパス。デフォルトのパスは WC_installdir/bin です。

user_ID

これは、パスワードを追加、作成、削除、または変更したいユーザー ID です。

password

これは、追加、作成、削除、または変更したいパスワードです。

new_password

このパラメーターが必要なのは、アクション・タイプとして「変更」を指定した場合のみです。

これは、ユーザー ID に割り当てる新規パスワードです。

WebSphere Commerce サイト管理者パスワードの変更

WebSphere Commerce 管理コンソールを使用することによってパスワードを変更できます。

WebSphere Commerce 管理コンソールを使用してパスワードを変更するには、以下のようになります。

1. WebSphere Commerce 管理コンソールを始動します。
2. WebSphere Commerce インスタンスを作成したら、サイト管理者 ID およびパスワードでログオンします。
3. 「パスワード変更」チェック・ボックスを選択して、「ログオン」をクリックします。「パスワード変更」ページが表示されます。
4. 「旧パスワード」フィールドで、現在の管理コンソール・ログオン・パスワードを入力します。このフィールドは英数字で 128 文字まで入力できます。
5. 「新規パスワード」フィールドで、新規のログオン・パスワードを入力します。このフィールドは英数字で 128 文字まで入力できます。
6. 「新規パスワードの確認」フィールドで、パスワードを再入力します。
7. 「変更」をクリックして、新規パスワードを保管します。「ストアおよび言語の選択」ページが表示されます。
8. WebSphere Commerce 管理コンソールを終了します。

サイト管理者パスワードのリセット

サイト管理者パスワードを忘れてしまい、パスワードをリセットしたい場合、以下のようになります。

1. コマンド・プロンプト・セッションを始動します。

Bourne シェルを使用していないことを確認します。WebSphere Commerce コマンドは Bourne シェルでは作動しません。WebSphere Commerce コマンドを実行するには、Korn シェルを使用するようお勧めします。

2. 以下のコマンドを発行します。

```
WC_installdir/bin/wcs_password.sh password SALT merchant_key
```

変数は以下のように定義されます。

password

サイト管理者 ID に割り当てたい新規パスワード。

SALT これは使用したいランダムな 12 桁の数値です。この数値はパスワードの暗号化をシードします。

後でサイト管理者用の WebSphere Commerce データベース USERREG テーブル・エントリを更新する際にこの数値を使用するため、この数値を記録します。

マーチャント鍵

これは、WebSphere Commerce インスタンスが作成された際に定義されるマーチャント鍵です。このマーチャント鍵もパスワードの暗号化をシードします。

以下は、コマンドからの出力の例です。

```
IBM*
Licensed Materials - Property of IBM
5697-A16
(C) Copyrights by IBM and by other(s) 1978, 1997. All Rights Reserved.
* Trademark of International Business Machines Corp.
=== WCS Encrypted Password ===
ASCII Format: pArp97jT4NOXN6MyWswTQpwaPbIFsEWQGwfeu08yIyM=
Hex Format: 7041727039376a54344e4f584e364d79577377545170776d
```

暗号化されたパスワードの ASCII フォーマット値を記録します。

3. WebSphere Commerce データベースに接続します。

WebSphere Commerce に使用するデータベース管理システムに応じて、下のコマンドのいずれかを発行します。

```
db2 connect to db_name user user_name using password
```

変数は以下のように定義されます。

db_name

WebSphere Commerce データベースの名前。

user_name

WebSphere Commerce データベース用の DB2 データベース・ユーザー ID。

password

DB2 データベース・ユーザー ID と関連したパスワード。

4. 以下のコマンドを発行して、サイト管理者 ID の USERREG 表にある SALT および LOGONPASSWORD 列を更新します。

```
db2 "update USERREG set LOGONPASSWORD='ASCII_encrypted_string'
where LOGONID='site_admin_id'"
```

```
db2 "update USERREG set SALT='SALT' where LOGONID='site_admin_id'"
```

変数は以下のように定義されます。

ASCII_encrypted_string

これは、`wcs_password.sh` コマンドから取得された ASCII フォーマット値です。

SALT これは、`wcs_password.sh` コマンドをシードするのに使用した 12 桁のランダムな数値です。

site_admin_id

これは、パスワードをリセットするサイト管理者 ID です。

サイト管理者 ID のリカバリー

WebSphere Commerce インスタンスが作成された際に定義されたサイト管理者 ID を忘れてしまい、サイト管理者として権限が与えられた ID がほかにない場合、サイト管理者 ID を以下の手順でリカバリーできます。

1. WebSphere Commerce に使用するデータベース管理システムに応じて、下のコマンドを発行します。

```
db2 connect to db_name user user_name using password  
db2 select LOGONID from USERREG where USERS_ID=-1000
```

変数は以下のように定義されます。

db_name

WebSphere Commerce データベースの名前。

user_name

WebSphere Commerce データベース用の DB2 データベース・ユーザー ID。

password

DB2 データベース・ユーザー ID と関連したパスワード。

これらのコマンドは、サイト管理者 ID を戻します。

第 19 章 一般管理用タスク

この章では、WebSphere Commerce を使用する場合に実行する必要がある、一般管理用タスクのいくつかについて説明します。

コマンド行構成タスク

コマンド行全体で、以下のことを行えます。

- インスタンスの更新

```
WC_installdir/bin/config_client.sh -startCmdLineConfig  
updateInstance xml_file
```

- インスタンスの削除

```
WC_installdir/bin/config_client.sh -startCmdLineConfig  
deleteInstance instance_name
```

- 既存のインスタンスのリスト

```
WC_installdir/bin/config_client.sh -startCmdLineConfig  
getInstances
```

- インスタンスに関する情報の検索

```
WC_installdir/bin/config_client.sh -startCmdLineConfig  
getInstanceInfo instance_name
```

- ファイルへのインスタンスの構成情報の印刷

```
WC_installdir/bin/config_client.sh -startCmdLineConfig  
getInstanceConfig instance_name print_to_file_name
```

`WC_installdir` のデフォルト値は、iv ページの『パス変数』にリストされています。

注: このセクションのコマンドは、表示のみを目的に複数の行に表示されます。これらの行を 1 行に入力します。

リモート DB2 データベースのカタログ

データベース・クライアント/サーバー接続を使用可能にし、以下のコマンドをデータベース・クライアント・マシンから DB2 コマンド・ウィンドウに入力して、クライアントのノードおよびデータベースをカタログします。

```
db2 catalog tcpip node node_name remote host_name server port_num  
db2 catalog db db_name at node node_name
```

コマンドの可変情報は以下のように定義されます。

node_name

DB2 が TCP/IP ノードの識別に使用する、選択した固有の名前。ご使用の名前が固有であることを確かめるために、以下のコマンドを DB2 コマンド・ウィンドウに入力できます。

```
db2 list node directory
```

また、応答内で名前を検索します。名前がリストされない場合、それをノード名として使用できます。

host_name

WebSphere Commerce データベースがあるマシンの完全修飾ホスト名。

port_num

TCP/IP 接続を識別するポート番号。ポート番号を判別するには、データベース・サーバー・マシンから以下を行います。

1. データベース・ノードの DB2 コマンド・セッションで、以下のコマンドを発行します。

```
db2 get dbm cfg
```

SVCENAME の値 (「TCP/IP Service Name」というテキストによっても識別される) を書き留めます。

2. ご使用のデータベースを実行しているマシンで、サービス・ファイル `¥etc¥services` を開き、前のステップで確認した名前が始まる行を探します。ポート番号が同じ行の 2 列目に表示されます (ストリング `/tcp` が追加されている)。DB2 Universal Database のデフォルトのポート番号は 50000 です。

db_name

リモート・データベースの名前。

デフォルトの WebSphere Commerce データベース名は `Mail` です。

デフォルトの WebSphere Commerce Payments データベース名は `wpm` です。

第 20 章 WebSphere Commerce を管理する際に必要なユーザー ID

WebSphere Commerce 環境での管理にはさまざまなユーザー ID が必要になります。これらのユーザー ID はその必要権限とともに下のリストで説明されています。WebSphere Commerce ユーザー ID の場合、デフォルトのパスワードが識別されます。

構成マネージャー・ユーザー ID

構成マネージャー・ツールのグラフィカル・インターフェースを使用すると、WebSphere Commerce の構成方法を変更することができます。デフォルトの構成マネージャー・ユーザー ID およびパスワードは、webadmin および webibm です。

構成マネージャーへは、ご使用の WebSphere Commerce マシン、またグラフィカル・ユーザー・インターフェースをサポートする WebSphere Commerce と同じネットワーク上にあり、構成マネージャー・クライアントがインストールされているマシンからアクセスできます。

WebSphere Commerce 修正パッケージを将来適用する場合、WebSphere Commerce 構成マネージャー・サーバーとクライアント・マシンの両方が同じ修正パッケージ・レベルにあることを確認します。

重要: 構成マネージャー・サーバーと構成マネージャー・クライアントの両方を WebSphere Commerce 非 root ユーザー ID の下で始動する必要があります。さらに、構成マネージャー・サーバーまたはクライアントを Bourne シェルで始動することはできません。

WebSphere Commerce サイト管理者

サイト管理者ユーザー ID およびパスワードは、以下の WebSphere Commerce ツールに適用されます。

WebSphere Commerce アクセラレーター

Windows オペレーティング・システムを実行するマシンから WebSphere Commerce アクセラレーターにアクセスするには、Internet Explorer Web ブラウザーを開き、以下の URL を入力します。

`https://host_name:8000/accelerator`

WebSphere Commerce 管理コンソール

Windows オペレーティング・システムを実行するマシンから WebSphere Commerce 管理コンソールにアクセスするには、Internet Explorer Web ブラウザーを開き、以下の URL を入力します。

`https://host_name:8002/adminconsole`

WebSphere Commerce 組織管理コンソール

Windows オペレーティング・システムを実行するマシンから

WebSphere Commerce 組織管理コンソールにアクセスするには、Internet Explorer Web ブラウザーを開き、以下の URL を入力します。

`https://host_name:8004/orgadminconsole`

WebSphere Commerce インスタンスの作成中にサイト管理者の初期ユーザー ID およびパスワードが指定されます。WebSphere Commerce では、サイト管理者パスワードは以下の規則に従ったものでなければなりません。

- パスワードは少なくとも 8 文字の長さである必要があります。
- パスワードには少なくとも 1 つの数字が含まれている必要があります。
- パスワードには同じ文字を 5 つ以上含めることはできません。
- パスワードは同じ文字を 4 回以上繰り返すことはできません。

第 7 部 付録

付録 A. 既知の問題および制限

このセクションでは、WebSphere Commerce に関する既知の問題および制限を扱っています。この資料の作成後に明らかになった問題または制限については、README ファイルを参照してください。

追加のトラブルシューティング情報は、WebSphere Application Server の WebSphere Commerce 用のトレース機能をオンにすることによって収集できます。トレース機能については詳しくは、「*WebSphere Commerce 管理ガイド*」を参照してください。

一般の問題および制限

WebSphere Commerce コマンドを発行時にエラーを受け取った

Intel プロセッサ・ベースのサーバー上の Linux の場合、WebSphere Commerce コマンドを発行すると以下のエラー・メッセージを受け取る場合があります。

```
bash: ulimit: cannot modify limit: Operation not permitted
```

このエラー・メッセージは無視しても問題ありません。

インストール問題および制限

コンソール・モードでインストールするとフリー・スペース・メッセージが変更されない

インストール・ウィザードをコンソール・モードで実行している場合にインストール・ディレクトリーを変更すると、ディレクトリーに使用可能なフリー・スペースがあることを示すメッセージは更新されず、選択した場所のフリー・スペースが反映されません。

新規の場所に製品をインストールするための十分なフリー・スペースがない場合、「次へ」をクリックするとエラーを受け取ります。

以前のバージョンの DB2 Universal Database がインストールされているマシンで生じるインストール問題

以前に DB2 Universal Database がマシンにインストールされ、現在はアンインストールされている場合、WebSphere Commerce インストール・ウィザードを使用して DB2 Universal Database をインストールする前に以下の条件を満たしていることを確認してください。

- 以前のデータベースすべてが、正しく除去およびアンカタログされていることを確認します。
- すべてのデータベース ID が除去されていることを、`dasdrop` および `db2idrop` コマンドを使用して確認します。

これらのコマンドおよびその使用について詳しくは、DB2 Universal Database 資料を参照してください。

- DB2 ポートが `/etc/services` ファイルから除去されていることを確認します。
- 以下のユーザーがシステムに存在しないことを確認します。
 - `db2fwc1`
 - `daswc1`
- 以下のグループがシステムに存在しないことを確認します。
 - `daswgc1`
 - `db2fwgc1`

Web サーバー問題および制限

セキュア (HTTPS) URL が作動しない

WebSphere Commerce 用のセキュア URL のいずれかが作動しない場合、Web サーバーの SSL 証明書が欠落しているか、有効期限が切れている可能性があります。

SSL 証明書のインストールおよび更新について詳しくは、Web サーバー資料を参照してください。

WebSphere Commerce インスタンスの問題および制限

createsp.log ファイルにエラーが含まれる

createsp.log ファイルにエラーが含まれる場合、このセクションの手順に従うことによって、これらのエラーを訂正することができます。

createsp.log ファイルは、以下のディレクトリーにあります。

`WC_installdir/instances/instance_name/logs`

`WC_installdir` のデフォルト値は、iv ページの『パス変数』にリストされており、`instance_name` は WebSphere Commerce インスタンスの名前を表します。

createsp.log ファイルにエラーが含まれる場合、以下を行います。

1. DB2 Universal Database インスタンスを所有するオペレーティング・システム ID が DB2 分離ユーザー・グループに属していることを確認します。
グループに属していない場合には、これを追加します。
2. DB2 Universal Database を再始動します。手順については、DB2 Universal Database 資料を参照してください。
3. 端末セッションを開始します。Korn シェルを使用していることを確認します。
4. ディレクトリーを以下に変更します。

`WC_installdir/bin`

5. 以下のコマンドを実行します。

```
./dropsp.db2.sh db_name db_user_ID db_user_password
./createsp.db2.sh db_name db_user_ID db_user_password dbschema
```

変数は以下のように定義されます。

db_name

WebSphere Commerce データベースの名前。WebSphere Commerce データベースのデフォルト名は `ma11` です。

db_user_ID

DB2 Universal Database インスタンスを所有するオペレーティング・システム ID。

db_user_password

db_user_ID に関連したパスワード。

WebSphere Commerce インストール言語以外のデフォルト言語による WebSphere Commerce インスタンスの作成

WebSphere Commerce のインストール中、インストール・ウィザード用に選択された言語は、WebSphere Commerce インスタンスを作成する場合に使用するデフォルトの言語を設定します。インストール言語以外のデフォルトの言語でインスタンスを作成すると、選択した言語の無効なデータが取り込まれたインスタンスが作成されます。

インストール言語以外のデフォルト言語でインスタンスを作成する場合、以下を行います。

1. テキスト・エディターを開いて、以下のファイルを編集します。

```
WC_installdir/schema/wcs.schema.ws_m1_db2.input  
WC_installdir/schema/wcs.schema2.ws_m1_db2.input
```

`WC_installdir` のデフォルト値は、iv ページの『パス変数』にリストされていません。

2. インストール言語のロケール・コードの出現箇所をすべて、新規のデフォルト・インスタンス言語のロケール・コードに置き換えます。WebSphere Commerce によって使用されるロケール・コードは、『インスタンスの作成に有効なロケール・コード』にリストされています。
3. 変更を保管して、テキスト・エディターを終了します。
4. 新規の WebSphere Commerce インスタンスを作成して、新規のデフォルト言語を指定していることを確認します。WebSphere Commerce インスタンスの作成の手順は、47 ページの『第 4 部 WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments インスタンスの作成』に記載されています。

インスタンスの作成に有効なロケール・コード

以下は、インスタンス作成ファイルの更新時に使用する有効なロケール・コードです。

| 言語 | ロケール・コード |
|-------|----------|
| ドイツ語 | de_DE |
| 英語 | en_US |
| スペイン語 | es_ES |
| フランス語 | fr_FR |
| イタリア語 | it_IT |
| 日本語 | ja_JP |

| 言語 | ロケール・コード |
|-------------|----------|
| 韓国語 | ko_KR |
| ブラジル・ポルトガル語 | pt_BR |
| 中国語 (簡体字) | zh_CN |
| 中国語 (繁体字) | zh_TW |

インスタンスの作成中にメモリー不足エラーが発生する

インスタンスの作成に失敗すると、インスタンスの作成時に `java.lang.OutOfMemory` 例外を受け取る場合があります。以下のログ・ファイルをチェックして、`java.lang.OutOfMemory` 例外がないかを調べます。

`WC_installdir/instances/WCSconfig.log`

メモリー不足エラーを訂正するには、以下のようにします。

1. テキスト・エディターで以下のファイルを開きます。

```
WC_installdir/bin/config_server.sh
```

2. ファイルを検索して以下のテキストがないかを調べます。

```
if [ $OS_NAME != "OS400" ]; then
    MAX_HEAP=-Xmx256m
fi
```

3. `MAX_HEAP` の値を増やします。たとえば、256 から 512 に変更します。
4. 変更を保管します。
5. インスタンスを再び作成します。

非 root ユーザーとしてログインすると WebSphere Commerce インスタンスが開始しない

WebSphere Commerce インスタンスを `root` として開始すると、非 `root` ユーザーとして WebSphere Commerce インスタンスを開始できません。

非 `root` ユーザーとして WebSphere Commerce インスタンスを再開できるようにするには、以下のようにします。

1. `root` としてログインして、端末セッションを開始します。
2. WebSphere Commerce を停止します。手順については、67 ページの『WebSphere Commerce インスタンスの開始と停止』を参照してください。
3. 以下のコマンドを実行します。

```
WC_installdir/bin/wc55nonroot.sh
```

`WC_installdir` のデフォルト値は、iv ページの『パス変数』にリストされています。

4. 非 `root` ユーザー ID に切り替えます。
5. WebSphere Commerce を開始します。手順については、67 ページの『WebSphere Commerce インスタンスの開始と停止』を参照してください。

ポートの競合をログに表示する

WebSphere Commerce インスタンスを開始しようとする時、以下のメッセージが表示される場合があります。

```
EJB6121: Application server did not start
```

以下のディレクトリーに SystemOut.log ファイルがあるかどうかを調べます。

```
WAS_installdir/logs/WC_instance_name
```

ここで *instance_name* は開始できなかった WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

SystemOut.log はすでに使用中のポートを表します。その場合のメッセージは以下のようなものです。

```
SRVE0146E: Failed to Start Transport on host, port xxxx.
```

このメッセージの原因として考えられるのは、ポートがすでに使用中であるということです。このポートを使用している他のアプリケーションがないことを確認してから、サーバーを再始動します。

WebSphere Commerce Payments インスタンスの問題および制限

リモート WebSphere Commerce Payments インスタンスが作動しない

リモート WebSphere Commerce Payments インスタンスが作動しない場合、WebSphere Commerce Payments インスタンスが正しく構成されていない可能性があります。

WebSphere Commerce Payments の構成を検査するには、以下のようにします。

1. WebSphere Commerce ノードで、テキスト・エディターで以下のファイルを開きます。

```
WC_installdir/instances/WC_instance_name/xml/  
WC_instance_name.xml
```

ここで *WC_instance_name* は WebSphere Commerce インスタンスの名前です。

WC_installdir のデフォルト値は、iv ページの『パス変数』にリストされています。

2. 以下のテキストを検索します。

```
<PaymentManager
```

3. 見つかったテキストの下の Hostname エントリーが WebSphere Commerce Payments によって使用される Web サーバー・ノードを指していることを確認します。

エントリーには、Web サーバー・ノードの完全修飾ホスト名が含まれている必要があります。

4. 変更を保管して、テキスト・エディターを終了します。

5. WebSphere Commerce Payments ノードで、テキスト・エディターで以下のファイルを開きます。

```
WC_installdir/instances/Payments_instance_name/xml/  
Payments_instance_name.xml
```

`payments_instance_name` は WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

`WC_installdir` のデフォルト値は、iv ページの『パス変数』にリストされています。

6. 以下のテキストを検索します。

```
<PMWCSRealm
```

7. 見つかったテキストの下の `Hostname` エントリーが WebSphere Commerce によって使用される Web サーバー・ノードを指していることを確認します。

エントリーには、Web サーバー・ノードの完全修飾ホスト名が含まれている必要があります。

8. 変更を保管して、テキスト・エディターを終了します。
9. WebSphere Commerce および WebSphere Commerce Payments を再始動します。手順については、67 ページの『第 15 章 WebSphere Commerce のタスク』を参照してください。

WebSphere Commerce Payments インスタンスが開始しない

WebSphere Application Server がポート 9090 以外のポートを使用するよう構成されている場合、WebSphere Commerce Payments インスタンスは開始しません。

これが問題の原因であるかどうかを確認するには、以下のようになります。

1. テキスト・エディターで以下を開きます。

```
WAS_installdir/logs/payments_instance_name_Commerce_Payments_Server/  
SystemOut.log
```

`payments_instance_name` は WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

`WAS_installdir` のデフォルト値は、iv ページの『パス変数』にリストされています。

2. ファイルを検索して以下のメッセージを探します。

```
SRVE0146E: Failed to Start Transport on host *, port 9090.
```

このエラー・メッセージがあった場合、WebSphere Commerce Payments ポートを変更します。手順については、『WebSphere Commerce Payments ポートの変更』を参照してください。

このエラー・メッセージがない場合には、IBM サポート担当員に連絡してください。

WebSphere Commerce Payments ポートの変更

WebSphere Commerce Payments のポートを変更するには、以下のようになります。

1. WebSphere Commerce 構成マネージャーを開始します。手順については、50 ページの『構成マネージャーの開始』を参照してください。
2. 「**WebSphere Commerce**」の下の、`hostname` を拡張表示します。

3. 「Payments」→「インスタント・リスト」→ *payments_instance_name* →「インスタンス・プロパティ」を拡張表示します。
4. 「Webserver」タブをクリックします。
5. 希望するポートを更新します。
6. 「適用」をクリックして、変更を適用します。

注: Payments のポートを変更する場合は、WebSphere Application Server 管理コンソールを使用するのではなく、49 ページの『第 11 章 構成マネージャーを使用してインスタンスを作成または変更する前に』の説明に従って、構成マネージャーを使用してください。これにより、すべてのプロパティとファイルは同じ情報で更新されます。

非 root ユーザーとしてログインすると WebSphere Commerce Payments インスタンスが開始しない

WebSphere Commerce Payments インスタンスを root として開始すると、非 root ユーザーとして WebSphere Commerce Payments インスタンスを開始することはできません。

非 root ユーザーとして WebSphere Commerce Payments インスタンスを再開できるようにするには、以下のようにします。

1. root としてログインして、端末セッションを開始します。
2. WebSphere Commerce Payments を停止します。手順については、67 ページの『WebSphere Commerce Payments インスタンスの開始と停止』を参照してください。
3. 以下のディレクトリーを削除します。

```
WAS_installdir/logs/instance_name_Commerce_Payments_Server/
```

ここで *instance_name* は WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

WAS_installdir のデフォルト値は、iv ページの『パス変数』にリストされています。

4. 以下のコマンドを実行します。

```
WC_installdir/bin/wc55nonroot.sh
```

WC_installdir のデフォルト値は、iv ページの『パス変数』にリストされています。

5. 非 root ユーザー ID に切り替えます。
6. WebSphere Commerce Payments を開始します。手順については、67 ページの『WebSphere Commerce Payments インスタンスの開始と停止』を参照してください。

付録 B. WebSphere Commerce コンポーネントのアンインストール

WebSphere Commerce コンポーネントは、インストールした時と逆の順序でアンインストールする必要があります。以下の順序で WebSphere Commerce コンポーネントをアンインストールします。

1. WebSphere Commerce、WebSphere Commerce Payments、および WebSphere Commerce 構成マネージャー・サーバーおよびクライアント
これらのコンポーネントは、他のコンポーネントをアンインストールする前に、インストールされたすべてのノードから除去されなければなりません。
2. WebSphere Application Server
3. Web サーバー
4. データベース

WebSphere Commerce、WebSphere Commerce Payments、または WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントのアンインストール

WebSphere Commerce、WebSphere Commerce Payments、または WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントをノードからのアンインストールするには、以下のようにします。

1. 67 ページの『WebSphere Commerce インスタンスの開始と停止』で説明されている方法で、WebSphere Commerce を停止します。
2. 67 ページの『WebSphere Commerce Payments インスタンスの開始と停止』で説明されている方法で、WebSphere Commerce Payments を停止します。
3. 68 ページの『WebSphere Commerce インスタンスの削除』にある指示に従って、WebSphere Commerce インスタンスを削除します。
4. 70 ページの『WebSphere Commerce Payments インスタンスの削除』にある指示に従って、WebSphere Commerce Payments インスタンスを削除します。
5. `WC_installdir` ディレクトリーまたはそのサブディレクトリー内にファイルを作成またはカスタマイズした場合、またそれらを保存したい場合には、WebSphere Commerce コンポーネントによって使用されていないディレクトリーにそれらをバックアップします。

`WC_installdir` のデフォルト値は、iv ページの『パス変数』にリストされています。

6. `root` としてログインしている場合、以下のコマンドのいずれかを発行してアンインストール・ウィザードを始動します。

```
WC_installdir/_uninst/uninstall_linux.jar
```

または

```
WC_installdir/_uninst/uninstall_linux.jar -console
```

`WC_installdir` のデフォルト値は、`iv` ページの『パス変数』にリストされています。

WebSphere Commerce の分散インストールの場合、WebSphere Commerce ノード、WebSphere Commerce Payments ノード、 および WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアント・ノードでアンインストール・ウィザードを実行します。

`-console` パラメーターを使用すると、テキスト・ベースのアンインストール・ウィザードが開始されます。テキスト・ベースのアンインストール・ウィザードと GUI ベースのアンインストール・ウィザードのステップは同じですが、アンインストール・ウィザードでの選択オプションの方式と作業の進行方法は異なります。

このセクションでは、オプションの選択と作業の進行に関する解説は、GUI ベースのアンインストール・ウィザードのもののみを記載しています。テキスト・ベースのアンインストール・ウィザードを使用してオプションを選択して作業を進める場合は、テキスト・ベースのアンインストール・ウィザードに示されるプロンプトに従ってください。

7. プロンプトに従って、アンインストール・ウィザードを完了します。
アンインストール・ウィザードが完了するのを待ってから、先に進みます。
8. `WC_installdir` がノード上にまだ存在している場合は、除去します。
`WC_installdir` のデフォルト値は、`iv` ページの『パス変数』にリストされています。

WebSphere Commerce、WebSphere Commerce Payments、または WebSphere Commerce 構成マネージャー・クライアントをインストールしたそれぞれのノードで指示を繰り返します。

WebSphere Application Server のアンインストール

WebSphere Application Server のアンインストールについて詳しくは、「*IBM WebSphere Application Server 概説 バージョン 5*」を参照してください。この資料は、以下の WebSphere Application Server ライブラリーから入手することができます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv/was/library/>

IBM HTTP Server のアンインストール

IBM HTTP Server が WebSphere Application Server と同じノードにインストールされている場合、WebSphere Application Server をアンインストールすると、IBM HTTP Server は自動的にアンインストールされます。

IBM HTTP Server のアンインストールの詳細については、「*IBM HTTP Server V1.3.26 powered by Apache Installation*」ファイルを参照してください。これは、以下の URL から入手することができます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/httpservers/library.html>

DB2 Universal Database のアンインストール

DB2 Universal Database のアンインストールについては、「*IBM DB2 Universal Database Quick Beginnings for DB2 Universal Database Express Edition*」を参照してください。この資料は、以下の DB2 Universal Database ライブラリーから入手することができます。

http://www.ibm.com/cgi-bin/db2www/data/db2/udb/winos2unix/support/v8pubs.d2w/en_main

注: WebSphere Commerce に付属する DB2 Universal Database CD には .tar ファイルが含まれます。DB2 Universal Database 資料の手順に従うには、CD の内容を一時ロケーションに `untar` する必要があります。または、DB2 Universal Database CD から実行できるコマンドをこの一時的なロケーションから実行します。DB2 Universal Database をアンインストールした後に、一時ロケーションを削除します。

付録 C. 情報の入手場所

WebSphere Commerce システムおよびそのコンポーネントについての詳細情報は、さまざまな情報源から異なるフォーマットで入手できます。以下のいくつかのセクションは、入手できる情報やそれにアクセスする方法を示しています。

WebSphere Commerce 情報

以下は、WebSphere Commerce 情報の情報源です。

- WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ
- WebSphere Commerce Technical Library

WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ

WebSphere Commerce オンライン情報は、WebSphere Commerce のカスタマイズ、管理、および再構成に関する主要な情報源です。WebSphere Commerce をインストールした後、以下の URL にアクセスするとオンライン情報のトピックにアクセスすることができます。

`https://host_name:8000/wchelp/`

`host_name` は、WebSphere Commerce がインストールされたマシンの完全修飾 TCP/IP ホスト名です。

WebSphere Commerce Technical Library

WebSphere Commerce Technical Library は以下の URL から利用できます。

`http://www.ibm.com/software/commerce/library/`

本書のコピー、および本書の更新されたバージョンは、WebSphere Commerce Web サイトのライブラリー・セクションで PDF ファイルとして入手できます。加えて、新規および更新された資料を WebSphere Commerce Technical Library Web サイトから入手することもできます。

WebSphere Commerce Payments 情報

WebSphere Commerce Payments のヘルプは、以下のヘルプ・アイコンをクリックして入手できます。



このヘルプ・アイコンは、WebSphere Commerce 管理コンソールおよび WebSphere Commerce アクセラレーター内の WebSphere Commerce Payments ユーザー・インターフェース、および以下の URL のスタンドアロン WebSphere Commerce Payments ユーザー・インターフェースに表示されます。

`http://host_name:http_port/webapp/PaymentManager`

または

`https://host_name:ssl_port/webapp/PaymentManager`

変数は以下のように定義されます。

host_name

WebSphere Commerce Payments と関連した Web サーバーの完全修飾 TCP/IP ホスト名。

http_port

WebSphere Commerce Payments が使用する HTTP ポート。デフォルトの HTTP ポートは 5432 です。

ssl_port

WebSphere Commerce Payments が使用する SSL ポート。デフォルトの SSL ポートは 5433 です。

WebSphere Commerce Payments が SSL 対応である場合、どちらの URL を使用することもできます。 WebSphere Commerce Payments が SSL 対応でない場合、非セキュア URL (`http`) だけしか使用できません。

ヘルプは以下の URL でも入手できます。

`http://host_name:http_port/webapp/PaymentManager/language/docenter.html`

または

`https://host_name:ssl_port/webapp/PaymentManager/language/docenter.html`

変数は以下のように定義されます。

host_name

WebSphere Commerce Payments と関連した Web サーバーの完全修飾 TCP/IP ホスト名。

http_port

WebSphere Commerce Payments が使用する HTTP ポート。デフォルトの HTTP ポートは 5432 です。

ssl_port

WebSphere Commerce Payments が使用する SSL ポート。デフォルトの SSL ポートは 5433 です。

language

ヘルプ・ページが表示される言語の言語コード。ほとんどの言語が 2 文字です。言語コードは以下のとおりです。

| 言語 | コード |
|-------|-----|
| ドイツ語 | de |
| 英語 | en |
| スペイン語 | es |
| フランス語 | fr |
| イタリア語 | it |
| 日本語 | ja |

| 言語 | コード |
|-------------|-------|
| 韓国語 | ko |
| ブラジル・ポルトガル語 | pt |
| 中国語 (簡体字) | zh |
| 中国語 (繁体字) | zh_TW |

WebSphere Commerce Payments および Payments Cassette に関する詳細情報は、WebSphere Commerce Technical Library で入手できます。

<http://www.ibm.com/software/commerce/library/>

IBM HTTP Server 情報

IBM HTTP Server 情報は、IBM HTTP Server Web サイトで入手できます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/httpservers/>

資料は HTML 形式、PDF ファイル、またはその両方です。

WebSphere Application Server 情報

WebSphere Application Server 情報は、WebSphere Application Server InfoCenter で入手できます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv/infocenter.html>

DB2 Universal Database 情報

HTML ドキュメンテーション・ファイルは、`/doc/locale/html` サブディレクトリの下で入手できます。*locale* は、ご使用のロケールの言語コード (例、米国英語の場合は *en*) です。各国語で使用できないドキュメンテーションはすべて英語で表示されます。

追加の DB2 情報は、DB2 Technical Library で入手できます。

<http://www.ibm.com/software/data/db2/library/>

他の IBM 資料

ほとんどの IBM 資料は、IBM 認定販売店または営業担当員から購入することができます。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む。) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。

国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム（本プログラムを含む）との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

*IBM Canada Ltd.
Office of the Lab Director
8200 Warden Avenue
Markham, Ontario
L6G 1C7
Canada*

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

商標

IBM ロゴ および以下は、IBM Corporation の商標です。

| | | |
|-------|------------------------|-----------|
| DB2 | DB2 Universal Database | IBM |
| Lotus | Notes | WebSphere |

Pentium は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。